

四 山本・張鉄道交渉

付 満鉄対米借款問題

278

193 昭和2年10月4日

田中外務大臣より
在中國芳沢公使宛（電報）

北京 本省 10月6日後着

山本滿鉄社長より張作霖へ送付されたと認められる鉄道問題に関する文書の内容について

※第四三二号

十月一日土肥原大佐發參謀次長宛電報支第四七八号後段ニ「該案中鐵道借款利息ノ付シ方等ニ難点アルモノ云々」トアル處右該案ナルモノハ滿鉄社長ヨリ張作霖ニ送付シタルモノノ如ク認メラルニ付テハ其辺ノ事情及出来得レハ案ノ内容然ルヘキ方法ヲ以テ御確ノ上回電アリタシ

奉天へ転電アリタシ

194 昭和2年10月(6)日 在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛（電報）

195 昭和2年10月(6)日 在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛（電報）

山本滿鉄社長より張作霖への書信についての
田中外務大臣の照会に対する回答

北京 本省 10月6日後着

194

第一〇五三号
〔一九四文書〕

往電第一〇五一号ニ閲シ

江藤ニ質シタル處同人ハ二十六日張作霖ニ二回ニ瓦リ山本社長及松岡副社長ノ伝言ヲ口頭ニテ伝ヘタルカ其内容ハ社長ノ分ハ曾テ滿鉄沿線各地ニ於テ為シタル同社長ノ演説ノ趣旨ヲ敷衍シ二十年間ノ満州ノ平和カ日本ニ負フ所以ト日

支經濟提携ノ必要ヲ力説シ提携ノ内容例へハ借款条件ノ細目等ハ彼我ノ交渉ニ於テ幾ラモ互譲妥協ノ余地アルコトヲ述ヘタル大局論的ノモノニシテ此分ハ新聞ニモ発表セラレ居リ且江藤ニ先立チ町野顧問ニ於テ文書ニ認メ帰リ張作霖ニ手交シ置キタルモノト大体同シ副社長ノ分ハ平行線ハ日本ニ於テ張ノ敵対行為ト看做スノ外ナク之ヲ中止シテ日本

ニ対スル誠意ヲ披瀝スル迄ハ到底商議ニ入ル能ハサルコトヲ力説シタルモノナルカ右ハ二十七日江藤再訪問ノ際張ニ於テ篤ト調査シタルモ結果断然建設工事ヲ差止ムヘキ旨ヲ明言シタル由ナリ

即チ何レモ口頭ニ依ル伝言ニ過キサルモノナルカ土肥原トノ対談ノ際之ヲ書面ト混同シテ伝ヘタルモノト思ハル

奉天へ転電セリ

四 山本・張鉄道交渉

土肥原ニ確メタルニ該案トハ單ニ滿蒙問題ヲ意味シ別ニ滿鉄社長ノ張作霖宛書面中ニ何等提案アリシ趣旨ニアラス該書面ハ曩ニ中日ノ江藤来燕ノ際持参シタルモノラシキモ内容承知セストノコトナリ依テ目下右内容取調中

奉天へ転電セリ

196 昭和2年10月12日 在北京本庄公使館付武官より
烟陸軍次官宛（電報）

195 昭和2年10月(6)日 在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛（電報）

山本滿鉄社長、松岡副社長より張作霖へ伝言
された日支經濟提携の必要および滿鉄平行線
問題について

北京 本省 10月6日後着

196

支第六一二号
〔10月13日外務省接受〕

山本滿鉄社長と張作霖との協議による滿蒙鐵道建設および借款利息等に関する諒解事項の要点について

北京 10月12日後発
陸軍省 10月13日前着

去ル四日小官張作霖ニ会見シ長時間ニ瓦リ田中總理大臣ノ意見ヲ伝ヘタリシ際「鐵道線路ノ事ニ就キテハ予ト近ク來京スヘキ山本社長トノ間ニ直接交渉シ借款利子ノ事ニ就キテハ楊宇霆ト公使又ハ山本社長トノ間ニ交渉ニ委スヘシ」ト語リタリシカ昨日山本作霖両者ノ間ニ纏マレル交渉ノ要点ノ大体左ノ如シ

一、山本ハ吉会、長春一大賚、洮南一索倫、吉林一五常、

即チ何レモ口頭ニ依ル伝言ニ過キサルモノナルカ土肥原トノ対談ノ際之ヲ書面ト混同シテ伝ヘタルモノト思ハル

奉天へ転電セリ

延吉—海林、齊齊哈爾—黒河、新邱運炭線ノ七線ヲ提議

セシ処作霖ハ齊齊哈爾—黒河線ハ事情不明ニ付調査後ニ譲ラレ新邱運炭線ハ自分ノ方ニ既ニ輕便線ヲ有スルカ故ニ同意シ難シトテ此ノ兩線ニ反対シタルモ吉会、長大、

索倫、吉林—五常、延吉—海林ノ五線ハ之ヲ承認シ尚海竜—吉林線ヲ先方ヨリ申出山本之ヲ引受ケタリ

二、満鉄ノ計算ハ前記七線ノ建設総経費一億四千八百万円ナルカ山本ハ新建設鉄道ノ利益ヲ見ル迄其ノ建設費利子ノ支払ヲ延期スルノ主義ヲ承認セリ

三、新建設線ハ大体洮南齊齊哈爾線ノ例ニ倣ヒ日本側ノ請負工事トシ建設技師、会計(洮南、齊齊哈爾線ハ此ノ両者ノミ)ノ外營業監督ヲ入ルルコトニ略々諒解ヲ得タリ

四、支那側ニ於テ海竜—吉林線、吉会線及打通線等ヲ敷設スルコトヲ山本ニ於テ承認ス

五、新建設線ノ主要都市ニハ商埠ヲ設クルコトヲ承認ス

六、各線トモ交渉纏リ次第工事ニ着手ス

吉林ニ属スル鐵道ニ就キテハ作霖ヨリ張作相ニ命令シ必ス之ヲ承認セシム可キニツキ海竜—吉林線ハ是非吉林側へ讓歩方ヲ要求シ前記ノ通り決定シ又楊宇霆トノ間ニハ

建設費利子ノ事ノミ討議スルコトト為ス

右協議事項ハ昨夜中ニ文書ニ綴リ本日作霖ヨリ楊宇霆ヲ説得シ本日午後四時ヨリ山本楊宇霆両者ノ間ニ前記利子ノ件ヲ協定スルコトナレリ

山本ハ作霖トノ会見ニ於テ東支南線ノ「ゲージ」打替ヘヲ切リニ説得シタルモ作霖ハ最近露國側トノ間ニ東支利益ノ折半ヲ協定シタルコトトテ容易ニ之ニ応セヌ一応東支督弁呂榮寰ニ調査ヲ命ス可シト答ヘタリ

又山本ハ東三省治外法權ト我邦人ノ居住、営業、土地所有等ノ問題ヲ説キタル所作霖ハ事重大ナリトテ躊躇シ単ニ山本ト作霖トノ間ノ覚書位ノモノト為ス模様ナリ

前記鐵道ニ關スル問題ハ凡テ芳沢公使ノ支那側責任者トノ調印トシ公使ノ面目ヲ立テ山本ハ一切其ノ名ヲ出ササル筈尚該調印ハ今明日中ニ終了セシム可シ山本社長ハ本晚帰去

スル筈ナリシモ之カ為多少出発ヲ延期スルコトナルヘシスクテ本日ノ楊宇霆トノ交渉ハ中々ノ骨折ニテ都合ヨク調印ノ運トナルヤ尚断シ兼ヌルモ而カモ其ノ何レノ手ニ於テナルヲ問ハス上記鐵道建設ノ大綱ニシテ協定成立セハ細部ノ交渉ハ比較的容易ナルヘシ國家ノ幸慶之ニ過キサルナリ

197 昭和2年10月13日

在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

町野武馬、江藤豊二を通じて行われた山本・満鉄社長による張作霖との秘密交渉について

別電一 十月十三日付在中国芳沢公使より田中外務大臣宛第一〇八一号

二 十月十三日付在中国芳沢公使より田中外務大臣宛第一〇八二号
東三省治安維持に関する交換公文案および日支經濟提携案

北京 10月13日前發
本省 10月13日前着

第一〇八〇号
往電第一〇七一号ニ関シ

支那側ノ陳謝ハ一段落ヲ告ケタルモ本使トシテハ交渉転換迄ニハ尚張ヨリ閣下ニ對スル挨拶ノ書面ヲ必要トスル政府ノ既定方針ヲ体シ自重セル次第ナルカ山本満鉄社長十日來京スルヤ町野及江藤ヲ張作霖ノ許ニ遣ハシ交渉セシメタル結果ナリトテ十一日山本ノ本使ニ内話セル處ニ依レハ張ハ

満鉄側ノ希望スル幾多線路中五線タケ別電第一〇八一号ノ

別電ト共ニ在奉天總領事へ転電セリ

(別電一)

北京 10月13日前發

本省 10月13日後着

(一) 支那政府ハ南満鉄道会社ニ
 (1) 敦化ヨリ老頭溝ヲ經テ岡門沿岸ニ至ル線
 (2) 長春大賚線
 (3) 吉林五常線
 (4) 沈南索倫線
 (5) 延吉海林線
 等五線ノ鉄道建設ヲ請負ハシム工事ハ請負契約調印後直ニ始工ス請負金額ハ別ニ定ム

(二) 各線工事完成引渡後ハ請負金額ヲ会社ニ支払フ若シ支払ハサル時ハ洮昂鉄路工事請負契約ノ例ニ依リ借款ト為ス

(三) 各線ノ請負契約ハ本協約調印後直ニ之ヲ協定ス
 (四) 政府ト会社トハ右各線ト会社線トノ連絡及運賃協定ヲ為ス

(別電二)

北京 10月13日前發
本省 10月13日後着

第一〇八二号
 東三省治安維持ニ関スル交換公文案
 其一

(支那側來翰案)
 以書翰啓上致候陳者貴国政府ハ東三省ニ於ケル治安ノ維持ニ起見シ自衛ノ為必要已ムヲ

カ貴國領土ノ安寧並經濟的利益ニ重大ナル影響アルコトニ
 モノアル場合該地方ノ治安維持ニ必要ナル手段ヲ執ルノ意志アル旨聞知セラレタル趣ヲ以テ右等手段ハ日本國領土ノ治安ノ維持ト東三省ニ於ケル日本ノ特別ナル經濟利益ノ保持ニ起見シ自衛ノ為必要已ムヲ得サル限度ニ於テセラルヘキハ勿論日本國カ其措置ヲ講スル場合ハ貴國當該官憲ト協議ヲ遂ケラルヘキモノナリヤ否ヤニ関スル日本國政府ノ意向御問合ノ趣敬承致候依テ本使ハ茲ニ本国政府ノ訓令ヲ奉

シ日本國政府カ貴翰ヲ諒承シタル旨ヲ回答ス此段照會旁得貴意候

鑑ミラレ民国ノ内部ヨリスルト外部ヨリ来ルトヲ問ハス苟モ東三省ノ治安ヲ乱シ又ハ亂サムトスルモノアル場合該地方ノ治安維持ニ必要ナル手段ヲ執ルノ意志ヲ有セラル趣ニ有之候處右ハ貴國領土ノ治安ノ維持ト貴國ノ東三省ニ於ケル特別ナル經濟利益ノ保持ニ起見シ自衛ノ為必要已ムヲ得サル限度ニ於テセラルヘキハ勿論其措置ヲ講セラル場合ハ貴國當該官憲ト協議ヲ遂ケラルヘキモノナリヤ否ヤニ關スル日本國政府ノ意向御問合ノ趣敬承致候依テ本使ハ茲ニ本国政府ノ訓令ヲ奉候ニ付テハ右ニ關スル貴國政府ノ御意向承知致度此段照會旁得貴意候

敬具

中華民国十六年 月 日 貴意候 敬具

外交總長

月 日

駐支日本公使

其二

(日本側復翰案)

以書翰敬上致候陳者 月 日付以貴翰日本國政府カ東三省ニ於ケル治安ノ維持ハ自國領土ノ安寧並經濟的利益ニ重大ナル影響アルコトニ鑑ミ貴國ノ内部ヨリスルト外部ヨリ來ルトヲ問ハス苟クモ東三省ノ治安ヲ乱シ又ハ亂サムトスル

(別電一)

シ会社ト協議ス

(六) 政府ハ会社ト協議ノ上吉林海龍間鉄道ノ線路ヲ決定ス且本鉄道カ会社ノ利益ヲ絶対ニ阻害セサル目的ヲ以テ其運賃協定及營業ニ関シ会社ト協議ス

(七) 政府ハ開通、扶余間鉄道ハ勿論四洮線ヨリ東北方ニ向フ新線ヲ建造セス

(八) 政府ハ本協約ニ記載スル各鉄道ノ主要駅ヲ商埠地ト為ス

(九) 本協約ハ調印ノ日ヨリ其効力ヲ發生ス

(十) 本協約ハ調印後両政府間ニ正式調印セラルヘキモノナリ

(十一) 政府ハ本協約ニ記載スル各鉄道ノ主要駅ヲ商埠地ト為ス

(十二) 政府ハ開通、扶余間鉄道ハ勿論四洮線ヨリ東北方ニ向フ新線ヲ建造セス

(別電二)

シ会社ト協議ス

(六) 政府ハ会社ト協議ノ上吉林海龍間鉄道ノ線路ヲ決定ス且本鉄道カ会社ノ利益ヲ絶対ニ阻害セサル目的ヲ以テ其運賃協定及營業ニ関シ会社ト協議ス

(七) 政府ハ開通、扶余間鉄道ハ勿論四洮線ヨリ東北方ニ向フ新線ヲ建造セス

(八) 政府ハ本協約ニ記載スル各鉄道ノ主要駅ヲ商埠地ト為ス

(九) 本協約ハ調印ノ日ヨリ其効力ヲ發生ス

(十) 本協約ハ調印後両政府間ニ正式調印セラルヘキモノナリ

(十一) 政府ハ本協約ニ記載スル各鉄道ノ主要駅ヲ商埠地ト為ス

(十二) 政府ハ開通、扶余間鉄道ハ勿論四洮線ヨリ東北方ニ向フ新線ヲ建造セス

第一条 南北満州及東部内蒙古ニ於テ外国人ハ民国ノ法規ニ従ヒ居住来往シ土地建物ヲ租用シ商工業農業林業鉱業其ノ他一切ノ合法ナル業務ニ従事スルノ自由ヲ享受ス

前項ニ掲ケタル民國法規ハ内外人ニ均シク適用セラレ且内外人ノ平等ナル待遇ヲ保障スルモノタルヘシ

第二条 前条ノ地域内ニ於テ生産又ハ製造セラルル一切ノ貨物ハ自由ニ外国ニ輸出セラルヘシ

第三条 本取極ハ南満州鐵道會社ノ現ニ有スル地域ニ何等ノ変更ヲ來スモノト解セラルル事ナカルヘシ

第四条 大正四年五月二十五日北京ニ於テ調印セラレタル南満州及東部内蒙古ニ開スル日支兩國間條約ハ第一条ヲ除ク外本取極発効ノ日ヨリ廢棄セラルヘシ

第五条 滿州ニ開スル日支現行各條約ハ本取極ニ別段ノ定メアルモノヲ除クノ外一切從前ノ通实行セラルヘシ

第六条 本取極調印ノ日ヨリ効力ヲ生ス

198 昭和2年10月13日 在北京本庄公使館付武官より
白川陸軍大臣宛（電報）

山本滿鉄社長と楊宇霆との新建設鐵道の借款

利息等に関する交渉および張作霖へ提出の東

香ミニシタルモ總理潘復、交通次長常蔭槐及楊宇霆等ハ反対意見ヲ張作霖ニ提出シツツアルカ如シ小官等モ主旨ニ於テハ本両案ニ異議ナキモ本件ノ如キハ全然公使ノ範囲ニ属シ満鉄社長ノ仕事ニ非サルヘク此ノ間意志ノ疎隔ヲ來タスヘキハ自然ナリ從ツテ小官ハ山本社長ノ來燕ハ一時見合サ

ルヘク主張シタル次第ナリシカ公使ヨリ前々山本ノ來燕ヲ懇意シタル關係モアリ結局社長ハ交渉ニハ触レス張作霖ニ

大キク日、滿ノ利害關係ヲ説得シテ公使ノ交渉ヲ促進スルニ止メ在燕一、二日ニシテ帰リ去ルヘキ諒解ノ下ニ晋京スルコトトナリシモノナルカ遂ニ前記重大大案ノ提出トナリ仮令山本社長個人ノ私案トハ雖モ口頭ノ程度ナラハ兎モ角之ヲ文書トスルニ於テハ支那側ニテモ相當考慮スヘク利子ノ問題ニ就キ楊宇霆カ当初吾人ニ内話シタル以上ニ強硬ニ主張ヲナスニ至リシハ右ノ關係ニ基クモノニアラスヤト思ハル兎ニ角東京ニ於テ各關係者カ満鉄ト公使ノ交渉トノ連繫ヲ考慮セシ通リナリ例ノ張作霖ヨリ田中總理ニ發送スヘキ書面ノ如キモ既ニ交渉カ非公式トハイヘ開始セラレシ今日之レカ督促モ無意味ト思ハレ其ノ儘トナシアリ然シ事情ノ如何ニ拘ラス鐵道問題タケハ何ントカ成功セシメタク公使

四 山本・張鉄道交渉

三省治安維持に関する交換公文案、日支經濟
提携案について

支第六一四号

支第六一四号（1916文書）
（10月14日外務省接受）

北京 10月13日後発
陸軍省 10月13日後着

※
支第六一四号（1916文書）
（10月14日外務省接受）
建設鐵道利子ノ件ニ就キ交渉スル所アリンカ山本ハ損失ヲ招カサル時期迄利子ノ支払ヲ猶予スヘキモ其以後ハ既定期子ニ猶予セシ利子ヲ幾分宛加ヘテ支払ハレサルヘカラスト主張シ楊ハ此交渉ハ既ニ各方面ニ洩レタル以上多少支那側ニ有利ニ見ユル如クセサルヘカラス且ツ鐵道敷設ハ主トシテ日本ノ要求タル以上多少ノ損失ハ日本側ニ於テ負担セラルカ當然ナリトテ右猶予期間ノ利子ヲ後日ニ於テ支払フコトニ同意セス本十三日更ニ交渉ヲ試ミツツアル次第ナルカ如何ニ結着ス可キヤ猶未定ナルモ小官トシテハ國家的見地ニ於テ曲リナリニモ切ニ解決ヲ祈ルモノナリ然ルニ山本カ張作霖トノ見会ニ於テ滿蒙治安維持ニ關シ交換文書（公ノ文書ヲ交換スル意味）案日支經濟提携案（内容ハ治外法權ノ撤去ト内地雜居ニ開スル件）ヲ提出シ張作霖ハ幸ニ鶴

二於テモ折角苦心中ナリ

199 昭和2年10月13日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛（電報）

山本・張協約に対する奉天派幹部の反対について

北京 10月13日後発
本省 10月13日後着

第一〇八三号

十月十三日姚震ノ西田ヘノ内話左ノ通り

今回山本滿鉄社長來京張作霖ニ會見シ満蒙開發ニ開スル総括的ノ意見ヲ述ヘタル上四五線鐵道敷設ノ件ヲ提議シタルニ張ハ一応之ヲ承諾シタル由ナルカ十二日夜政府重要幹部会合シ（楊ハ列席セス）右提案ニ就キ最後ノ協議ヲ為シタル結果奉天派幹部ニ於テハ一致之ニ反対スルコトナリタル旨列席セシモノヨリ聞込メリ張作霖側ヨリ如何山本社長ニ回答シタルカハ承知セサルモ恐ラク表面ハ兎モ角裏面ハ山本社長ノ提案ヲ承諾セサルコト丈ヶハ確実ナリ若シ同社長ニ於テ張ノ承諾ニ依リ成ルモノト考ヘラルレハ甚々面白カラサル結果ヲ來スヘキニ付公使ヨリ右山本社長ニ注意セ

ラルルコト宜シカラムト存ス云々

右姚ノ内話ハ安福派ノ奉天派ニ対スル感情上幾分懸引アル
ヘキモ時節柄御参考迄

200 昭和2年10月13日

在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

山本満鉄社長の東三省治安維持に関する交換

公文案および日中經濟提携案の撤回について

北京 10月13日後発
本省 10月13日後着

第一〇八四号

^(一九七文書)第一〇八〇号ニ関シ

鐵道契約案交換公文案及日支經濟協定案ハ十一日山本社長來訪ノ際瞥見シタルノミニ止マリ翌十二日右写ヲ貰受ケ直ニ電報シタル次第ナルカ其後熟読ノ結果十三日同社長ニ面会シ鐵道契約交換公文案及經濟協定ノ「テキスト」丈ヶ何等意見ヲ付セス現ニ電報シタルカ本使ノ立場トシテ貴社長ト支那トノ交渉ニ就キ特ニ考慮ヲ要スヘキモノ二点アリ即チ第一点ハ張作霖及楊宇霆ノ陳謝ハ先ツ終了シタルモノト思ハルモ政府ノ訓令ニ依レハ張ヨリ田中總理ニ宛テ私信

ヲ送ルコトナリ居レルカ夫レノミ尚未決ナル事情アルカ故ニ此際貴社長ノ交渉進捗スル為ニ此未決ノ点ニ累ヲ及ボスコトナキヤノ懸念アルコトニテ第二点ハ鐵道契約案ハ別シテ交換公文案及經濟協定案ハ重要ナル政治問題ヲ包含シ此儘貴社長ニ於テ之カ交渉ヲ進捗セラルコトハ本使トシテ無関心ニ之ヲ黙視スル能ハサルコト之ナリト述ヘタル處同社長ハ第一点ハ之ヲ首肯シ第二点ニ就テハ此等書類ハ要スルニ自分ニ於テ張作霖ト茶話ヲ為スノ趣旨ニ外ナラスシテ之ヲ書面ニ認メタリトテ茶話以上ノ目的ニ出テタル次第ニアラス從テ直ニ消滅スルヤモ測リ難キ性質ノモノニテ之ヲ政府ニ報告スヘキ程度ニ達シタルモノニアラスト説明シタルニ付本使ハ仮令茶話ニセヨ問題具体化スル場合ニハ非常ニ重要ナル結果ヲ生スヘキ事柄ナルカ故ニ具体化スル以前ニ政府ノ承知ニ入レ置ク必要ヲ認メタル次第ナリト答へ別レタルカ其ノ後同社長來訪シ内話スル処ニ拠レハ鐵道契約ハ町野江藤ヲシテ尚交渉セシメツツアルモ交換公文案及經濟協定案ノ二者ハ直ニ張作霖ヨリ取返ス様右兩人ニ命シタリトノ事ナリ

右ハ本日同社長トノ會議ノ要領ナルカ同社長今回ノ措置振

ニ対シテハ議論ノ余地アルモ既ニ鐵道契約ニ付テハ目下交渉中ナル利率ノ点ヲ除クノ外(尤モ利率ニ付テモ既報契約案中ニハ何等ノ記載ナシ)大体話合順調ニ進ミ居ル趣ナル

カ故ニ今更之ヲ全然否認スルカ如キ事ハ國家的政策上ヨリ考ヘ不得策ト考ヘラルニ付ナルヘク之ヲ承認シ今後ニ於ケル交渉ノ基礎ト為ス方得策ナルヘク又交換公文及經濟協定案ハ既ニ撤回スル事トナリタル趣ニ付之以上詮議立テスル必要ナカルヘキカト信ス尙前記第一点陳謝問題ニ付テハ先方ハ往電第一〇六二号及第一〇七一号ノ如ク既ニ一応遺憾ノ意ヲ表シタル次第ニモアリ之以上此ノ点ニ拘泥スルトキハ交渉展開ノ時機ヲ非常ニ遅延セシムル虞無キニ非サルニ付張作霖ノ私信發送ヲ俟タス交渉ヲ再開スル事ト致シタシ何分ノ儀御回訓アリタシ

201 昭和2年10月14日

在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

打通線吉海線敷設工事中止および東支線クロ

ス断行などに關する張作霖の言明について

北京 10月14日後発
本省 10月14日後着

シ

第一〇八五号

本官発奉天宛電報

第一二三号

張作霖ハ過日山本満鉄社長ニ対シ打通線工事ノ中止ハ出来サルモ通遼以北ニハ延長セサルヘク又吉林海崑線工事及扶余開通線測量ノ中止及東支「クロス」断行方各關係官憲ニ命令スヘキ旨言明シタル趣ナルカ目下滿鉄ノ支那側ニ対スル鐵道交渉ニ対シテハ交通部事務代理常蔭槐一派ノ反対アリ又大臣宛電報第一〇八三号姚震ノ談話ニ依リ察知セラルカ如ク安福派一派ノ快トセサル事情モアリ果シテ張作霖ニ於テ右言明ノ通実行スルヤ疑ナキニアラサルモ右実情御取調ノ上大臣及當方へ電報アリ度尚今後ノ成行ニ付テモ精々御注意ノ上隨時電報アリタシ

吉林、鄭家屯、齊齊哈爾ヘ転電シ吉林ニ対シテハ吉林海崑線鄭家屯ニ対シテハ扶余開通線齊齊哈爾ニ対シテハ「クロス」問題ニ付夫々本電ノ趣旨ニ從ヒ查報方御申添ヘアリタシ

202 昭和2年10月14日

在北京本庄公使館付武官より
白川陸軍大臣宛(電報)

山本・張鉄道協約に関する借款利息および協約文書作成方法等について

（10月15日外務省接受）

支第六一六号

〔二九八文書〕

支第六一四号報告ノ通り昨日十三日山本社長ハ愈々出発ス可シトテ楊宇霆ニ対シ利子問題ニ就テ最後ノ決意ヲ促シ町野及中日実業委員江藤等ハ山本ノ依頼ヲ受ケ専ラ此ノ間ニ折衝シ結局左ノ通り決定セリ

一、利益ヲ挙ケ得ル時期迄利子ノ支払ヲ猶予スル事

二、利益ヲ見サル期間ハ利子ヲ五分トシ利益ヲ得ルニ至ル時期ノ後ノ利子ヲ八分トスルコト

三、利益ヲ見サル期間ノ損失利子三分ノ負担ヲ日、支折半トシ日本側ハ利益ヲ挙ケ得ル時期以後ニ於テ前項規定利子八分ニ右折半セル一分五厘ヲ適宜加算シ受領スルコト

但シ本件ハ秘密協定トシテ外部ニ發表セサルコト

之ニテ鉄道問題丈ハ兎ニ角決定シタル所以ニ就キ山本ハ張

作霖ト楊宇霆トニ再ヒ会見シ之ヲ文書トス可ク希望シタル

ニ大元帥タル張作霖ニ於テ署名セン訳ニモ行カス張作霖ヨ

作霖ト楊宇霆トニ再ヒ会見シ之ヲ文書トス可ク希望シタル

ニ大元帥タル張作霖ニ於テ署名セン訳ニモ行カス張作霖ヨ

山本満鉄社長十日來京十三日離燕其ノ間十一日及十二日張作霖、十三日張作霖及楊宇霆ト会見鉄道問題ノミナラス満州ノ治安維持ニ関スル交換公文案案及日支經濟協定案等ニ就キ会談シタル次第ハ拙電第一〇八〇号及第一〇八三号ニテ

リ七日總長宛鉄道問題ヲ承認シタル私信トシテハ如何トノコトナリシモ未タ夫レニテハ不十分ナリトシ結局張作霖ヨリ國務院ニ命シテ今明日中ニ文書ヲ作ラシメ町野携帶帰朝シ山本社長ニ交付スルコトナレリ最早間違ナカル可ク何レニセヨ喜フヘキ事ニ属ス

〔二九八文書〕

支第六一二号報告中ノ開魯林西線ハ満鉄側ノ都合ニテ文書ニハ省キ洮南—索倫線、延吉—海林線ハ第二期トシ殊ニ洮南—索倫線ハ利益ノ見込立タサル場合ニハ之ヲ見合ハシ情況ニヨリ齊齊哈爾—黒河線ヲ建築スルコトニ了解セルモ相

互ノ文書ニ表ハサス満蒙治安維持ニ関シ交換公文案案並ニ

日、支經濟提携案ハ山本社長カ携ヘ帰リ我政府及各方面ノ意見ヲ纏メタキ希望ノ如クナリシモ支那ニ於テモ不満アリ

支第六一四号電報ノ如ク支那側ニ於テモ躊躇シ右兩案ハ山本ニ於テ遂ニ見合ハスコトセリ其他内地難居ノ反駁土地問題、治外法權問題ヲ按配スルトキハ張作霖、楊宇霆トモ

ニ趣旨ニ於テ異存ナキコト故結局ハ成功スヘキモノナリト信セラル

各功名心ニ驅ラルコトナク我各方面ニ於ケル意志ノ疎通

ヲ十分ニシ周密ナル用意ト考慮ノ許ニ着手セラルコト要ス

二趣旨ニ於テ異存ナキコト故結局ハ成功スヘキモノナリト信セラル

御承知ノ処同社長ハ本使ニ對シ往電第一〇八四号ノ如ク右

〔二九〇文書〕

交換公文案案及日支經濟協定案ノ問題ハ一場ノ茶話シニ過キ

スト云フモ同社長ハ本使トノ会談中ニ右両案ハ大連ニ於テ

斎藤滿鉄理事カ起草シタリト洩シタルヨリ見レハ同社長ハ

大体大連ヨリ腹案ヲ携ヘ来リタルモノニシテ鉄道問題解決

ノ為ニ利用シタルモノノ如ク其ノ外同社長ハ今回ノ鉄道交

渉ニ關シ三百万円乃至五百萬円位用意シアル旨江藤、町野

等ヲシテ張作霖ニ洩ラサシメタルモノノ如シ尚張作霖ハ同

社長ニ對シ東支線ニ對シテハ今後五呎軌道ノ鐵道ハ断シテ

敷設ヲ許可セサル方針ナリト言明シ又同社長カ張作霖ニ對

シ若シ支那側ニ於テ東支南線ヲ買収シ之ヲ標準軌道ニ改築

スル場合ニハ満鉄ハ幾千万円ノ支出ヲモ惜マサル旨話シタ

ルニ対シ張大元帥ハ何レ東支南線ノ回収ヲ實行シタキモ未

タ其ノ時機ニ非スト応答シタル由ナリ又同社長ノ談ニ依レ

ハ今回ノ鉄道交渉ニ當リ通遼開魯線ハ支那側ニ於テ通遼林

西間ノ敷設ヲ希望セル故ニ満鉄側ヨリ提議セス新邱線ハ支那側ノ反対猛烈ニシテ到底承認ノ氣配ナキノミナラス撫順炭鉱ノ關係上今急ニ必要トスル訣ニモ非サルカ故ニ強テ主張セス（同社長ハ張學良一派カ新邱炭鉱ニ着眼シ居ル關係

203 昭和2年10月14日

在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛

山本満鉄社長の対張作霖満蒙鉄道交渉に関する
る談話について

付記

十月十四日斎藤滿鉄理事持參の山本満鉄社長よ
り斎藤滿鉄理事宛電報

張作霖との交渉中鉄道問題以外の件は座談であ
る旨田中總理および外務省に説明方について

（接受日不明）

機密第一〇二四号

昭和2年10月14日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉（印）

外務大臣男爵 田中 義一殿

山本満鉄社長ト張作霖トノ満蒙鉄道交渉ニ關
スル件

山本満鉄社長十日來京十三日離燕其ノ間十一日及十二日張作霖、十三日張作霖及楊宇霆ト会見鉄道問題ノミナラス満州ノ治安維持ニ關スル交換公文案案及日支經濟協定案等ニ就キ会談シタル次第ハ拙電第一〇八〇号及第一〇八三号ニテ

（九七文書）

（九九文書）

アリ何レハ日支合弁トテモスルニ非サレハ解決困難ナルヘ
シト観測シ居レリ) 洗索線ハ今後五年位後ニ起工スヘキ旨
支那側ニ申聞ケ鉄道線ノ主要地点ニ商埠地ヲ設クルコトモ
支那側ニ於テ大体賛成シタルニ付社長ヨリ希望地点ノ表ヲ
手交シ置キタル由ナリ尚鉄道敷設ニ関シテハ利率ノ問題以
外ハ大体支那側トノ間ニ了解成立セリトノコトナルカ右利

率ニ就テハ原則トシテ八分トスルモ支那側ハ最初ハ鉄道ノ
利益アラサル間無利子トセムコトヲ主張シタルモ只今ハ利
益挙ラサル間ハ契約面ハ五分トシ別ニ秘密契約ニテ一分五
厘ニ相当スル金額ヲ満鉄ニ支払フコトニ折合ハムトスルモ
ノノ如シ支那側ニ於テハ利子高率ナル場合ハ地方民ノ反対
アリトテ表面成ル可ク低率トシ裏面ヨリ補足セムトスルモ
ノナルカ右支那側ノ提議ニ依ルモ結局六分五厘ノ割合トナ
ルカ故ニ兩者間余程接近シタルモノト云フヘシ

尚山本社長ハ出発間際停車場ニテ館員ヘノ立話ニ於テ支那
側ハ最後ニ到リ交換公文及日支經濟協定ニ対シ再ヒ乗リ氣
ニナレル旨ヲ語レル由ナリ

同社長ハ昨十三日夜当地発東京ニ直行スヘキカ故ニ委細ハ
天津ヨリ帰シ報告セシムヘキ旨本使ニ約束シタル処江藤ハ
十五日本使ヲ來訪シ語レル要領左ノ通

(一)十三日山本社長出發ノ際其ノ後ノ交渉経過ハ十四日江藤ヲ
天津ヨリ帰シ報告セシムヘキ旨本使ニ約束シタル処江藤ハ
十五日本使ヲ來訪シ語レル要領左ノ通

(二)鉄道協定及利率協定ハ十四日午後正式ニ成立シタルカ既
ニ郵報セル原案ニ修正ヲ加ヘタル個所左ノ通

(三)第二条ニ「但シ利息ハ別紙借款利率及付件協約ニ依ル」

ヲ加フ

(四)第五条及第六条ノ「且」以下ヲ「但シ本線路ハ将来会社

ト運輸連絡(運賃ニ関スル事項ヲ含ム)ニ關シ協議スルモ

ノトス」ト改ム

(五)第八条商埠地ノ件ヲ削除ス

(六)右協約正文ニ通ヲ作成シ町野之ヲ大連ニ携行シ山本社長
ノ印ヲ取ル筈ニテ社長ハ其内一通ヲ携ヘ東京ニ赴ク手筈ト
ナリ居レリ

(七)右ニ付本使カ江藤ニ經濟協定及交換公文ニ付質シタルニ之
イニ驚キ町野江藤列席ノ場所ニテ張ニ対シ独断專行ハ困ル
トテ大ニ不満ヲ述ヘタルニ張ハ鉄道協約ハ吾ニ於テ引受ケ
タルモノナリ汝ハ利率ノ点ノミ協定スレハ足ルト答ヘタル
カ楊ノ不満ハ事前ニ協約ヲ見サリシ事カ根本ノ原因ナラン
モ尚同人ハ運輸連絡ノ点ヲ細カク考ヘ居リタルニ大サツハ
ニ取極メラレタルモ一因ナルヘシ

(八)右楊ノ異議ニ對シ町野江藤等カ折衷意見ヲ出シタル結果
奉天へ転電セリ

ノ補足トシテ御参考迄右報告ス
尚本報告ハ外務省關係者以外ニハ洩レサル様御取計相成度
シ
本信写送付先 奉天

(付記)

(十月十四日斎藤理事持參)

今朝芳沢公使ヨリ電報セシ鉄道以外ノ事柄ハ單ニ張作霖ト
茶話的ニ其ノ場ニ於テ認メシモノニテ素ヨリ一場ノ座談ナ
ルヲ以テ何等重^(マ)ヲ措ク性質ノモノニ非サルコトヲ總理及ヒ
外務省ニ好ク説明シテ誤解ナキ様セラレ度シ茶話ノ結果カ
御互ニ國家ヲ思フ為テアルカラ時ニ此ノ様ナ問題テ懇談ス
ル機会ヲ作リ度シト話シ別レタリ

204 昭和2年10月19日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)
江藤豊ニの山本・張鉄道協約および利率協定

に関する談話要領について

北京 本省 発
10月15日後着

山本・張鐵道協約の署名および最終協約文
について

※ 支第六二一号
(10月18日外務省接受)
北京 10月15日後発
陸軍省 10月16日前着

支第六一六号談ノ張作霖ノ山本社長ニ承諾ヲ与ヘタル鉄道建設ニ關スル事項ヲ文書トナシタルモノヲ國務院ニ付議スル事ハ秘密ノ暴露トナリ萬事ヲ破壞スル事故之ヲ取止メ昨日町野、江藤兩人右文書ヲ携ヘ直接張作霖ノ署名ヲ要求シタル処作霖ハ不安ヲ感シタルモノト見ヘ急ニ楊宇霆ヲ招致セリ小官モ勝手ニ其席ニ望ミニカ楊宇霆ハ初メテ該文書ヲ見タリトテ種々意見ヲ吐キ作霖ハ既ニ承認ヲ与ヘタリト云ヘ要ハ大元帥ノ專断ス可キモノニアラスト言論スルニ至リ町野、江藤ハ極力説明ニ努力シ小官モ勢ヒロヲ挿ミ右文書ヲ若干修正シ結局楊宇霆ヲ納得セシメ本十五日町野、江藤再ヒ右清書シタルモノヲ携ヘ張作霖ノ許ニ至リ楊宇霆建立会ノ上又若干添削シ遂ニ其文書ヲ張作霖自ラ閱(大元帥公文ヲ裁可セシ時閱ノ字ヲ自書スルヲ慣例トス)ノ字ヲ書キ確

認ノ証拠トシ頭初楊宇霆ニ知ラシムル時ハ議論旨ク纏リ難キヲ恐レ張作霖諒解ノ上利子ニ關スル事ノ外ハ張作霖单独決定スル筈ナリシカ以上ノ如キ事情ニテ楊宇霆ノ予知スル所トナリ原案ニ多少ノ修正(意味ハ大差ナシ)ヲ加ヘタルモ本文書ハ却テ一段ノ確實性ヲ帶フルニ至レリ
協定セシ最後ノ文章ハ其表題ヲ單ニ協約ト記セルモノニテ要旨左ノ如シ

一、支那政府ト滿鐵会社トノ間ニ滿蒙ニ於ケル鉄道建設ニ就テ協約ヲ締結スルコト

二、建設スヘキ線(イ)吉林ヨリ老道溝ヲ經テ會寧ニ至ル線(ロ)長大線(ハ)吉林五常線(ニ)洮南索倫線(ホ)延吉海林

三、右各線ハ洮南齊齊哈爾線ノ例ニ倣ヒ滿鐵ニテ敷設工事ノ請負ヲナスコトトシ但シ鉄道資金ノ利息ハ別ニ定ムル所ニ依ル

四、各線工事ハ本協約ニ基キ兩政府間ニ協定成レハ直ニ着手シ得ルコト

五、支那側ハ打通線ヲ構築スルコト
但シ通遼以北ニ延長スル場合ハ該線ノ運輸連絡(賃金ノ

コトヲ含ム)ニ就テハ将来滿鉄会社ト協議ス

六、支那政府ハ吉林海龍線ヲ構築スルコト

該線ノ運輸連絡(賃金ノ事ヲ含ム)ニ就テハ将来滿鉄会社ト協議ス

七、支那政府ハ扶余開通線ヲ構築セナルコト

八、本協約成立後日支両国政府ノ間ニ正式ニ協定ヲナスコト

右項目ノ外二三ノ条項アルモノ必要ナルモノニ非別ニ一ツノ付則アリ共ニ支第六一六号報告利子ニ關スルモノニシテ一ハ利益ナキ期間ト利益ヲ得ルニ至リン後トノ利子差額ヲ折半シタル一分五厘ヲ追加スヘキ秘密ニ属スルモノ一ハ此一分五厘追加ノ事以外ノ利子ニ關シ總テノコトヲ規定シタルモノ尚最後ノ付則ニハ会計監督ヲ置キ経費ノ衝ニハ總テ其干涉ヲ要スルコトヲ規定シアリ以前ノ報告内ノ改メラレタル主ナル点ハ

一、建設スヘキ線路ヲ減シ单ニ五本ニ止メシコト

二、新鉄道線ノ重要駅ニ商埠地ヲ設クル等ヲ省キシコト

(本件ハ張作霖、楊宇霆共ニ主旨ニ於テ反対ニアラサルモ内務ノ管轄ニ属シ鉄道協約ニ帰スヘキコトニアラスト

特ニ字句訂正方御配慮アリタシ

206 昭和2年10月16日 田中外務大臣より

在中国芳沢公使宛(電報)

滿鉄による張作霖との直接交渉を直ちに開始すべき旨の

本省 10月16日発

第四五四号

^(一九七文書)

貴電第一〇八〇号ニ閣シ満鉄カ張作霖トノ間ニ鐵道問題其

他ニ関シ直接交渉シ居リタル事実ハ本大臣ニ於テ少シモ承

知シ居ラサリシトコロニシテ現ニ山本社長ヨリ九月十三日

吉田總領事ヲ經テ「張揚等ノ少シ許リノ態度緩和カ當方面

ニ於ケル排日ノ終熄位ニテ若シ我嚴肅ナル態度ヲ緩和シウ

ツカリ個々ノ交渉問題ニ移ルカ如キコトアラハ畢竟スルニ

与シ易シト見ラレ却テ今後ノ交渉ヲ累スルノ虞アリ」トテ

当分貴官宛往電第四〇四号ノ方針ヲ持続スルコト肝要ナリ

トノ意見ヲ上申シ來リ以來其儘ト相成居リ其後松岡副社長

ヨリ楊宇霆トノ會見ニツキ心得方電請シ來レルニ對シテハ

我方トシテ嚴肅ナル態度ヲ持シ居ル際ニモ有リ旁々單ニ楊

ノ意見ヲ閲置クニ止メ松岡ヨリノ意見ノ開陳ハ成ルヘク之

ヲ避クヘキ旨電示シ置キタルハ御承知ノ通リナリ然ル二十

月一日土肥原發參謀次長宛電報中ニ満鉄ヨリ張作霖ニ何等

ヲ提案シタルヤニ疑ハル節有リ此ノ点ニツキ貴官ヨリ江

藤ニ訊シタル處同人ハ山本社長ノ張ニ對スル伝言ハ日支經

濟提携ノ必要力説シタル大局論的ノモノニシテ又松岡副社

長ノ伝言ハ並行線中止ヲ求メ然ラサレハ到底商議ニ入ル能

ハサルコトヲ力説シタルモノナル由答弁シタル趣ナリシニ

^(一九七文書)貴電第一〇八一號及第一〇八二號ノ如キコトカ急転直下的ニ或ル程度迄具体化シタリ

ト云フニ付テハ其辺ノ事情甚々諒解ニ苦シムノミナラス山

本社長カ貴官ニ何等ノ打合モ無ク張作霖トノ間ニ重大ナル

交渉ヲ試ミタルハ如何ニモ当ヲ失シタル義ナルヤニ思考ス

將又往電第四四一号ヲ以テ転電セル松岡來電ニ依レハ吉会

線及長大線ニツキテハ既ニ契約内容迄殆ント確定シ居リ今

更大綱ナト定ムル要ナシ云々ト有ルニ拘ハラス今次満鉄社

長ノ取極メムトシタルモノモ单ニ之等ニ二線ヲ含ム五鉄道ノ

大綱ニ過キサルコトハ之亦諒解ニ苦ムトコロナリ右等ノ諸

様申聞ケル筈ナルカ貴官トシテハ此際満鉄ト張作霖トノ

交渉ニ頓着無ク且張ノ本大臣宛私信ノ發送ヲ俟タス直チニ

大綱ニ過キサルコトハ之亦諒解ニ苦ムトコロナリ右等ノ諸

様申聞ケル筈ナルカ貴官トシテハ此際満鉄ト張作霖トノ

交渉ヲ開始セラレ差支無シ但シ交渉方針ハ九月二十八日付

亞一機密第二四九号往信訓令ノ通リニシテ今日ニ於テモ何

トニツキテハ何レ満鉄社長來京ノ上篤ト事情ヲ聽取シタル

上外交ニ容喙スルカ如キ非難ヲ招ク虞有ル行動ハ之レヲ慎

ム様申聞ケル筈ナルカ貴官トシテハ此際満鉄ト張作霖トノ

点ニツキテハ何レ満鉄社長來京ノ上篤ト事情ヲ聽取シタル

上外交ニ容喙スルカ如キ非難ヲ招ク虞有ル行動ハ之レヲ慎

ム様申聞ケル筈ナルカ貴官トシテハ此際満鉄ト張作霖トノ

交渉ニ頓着無ク且張ノ本大臣宛私信ノ發送ヲ俟タス直チニ

大綱ニ過キサルコトハ之亦諒解ニ苦ムトコロナリ右等ノ諸

様申聞ケル筈ナルカ貴官トシテハ此際満鉄ト張作霖トノ

等変更有ル次第ニアラサルヲ以テ貴電第一〇八一号鐵道ニ
關スル契約案ナルモノハ貴官ノ裁量ニ依リ之レヲ参考トセ
ラルルハ格別敢テ之ニ拘泥セラルノ必要無シ尤モ交渉ニ
當リ支那側ニ於テ新邱線及林西線ノ代リニ吉林五常線及延
吉海林線ヲ強テ主張スルカ若クハ籌備費等ノ關係ヨリ我方
五線ニ加フルニ吉林五常線及延吉海林線ノ二線ヲ以テセム
トルカ如キ場合ニハ更ニ考慮スヘキニ付改メテ請訓セラ
ルル様致度シ

尚交渉再開前満鉄側交渉ノ經過ヲ充分取調ヘラレ我方主張
ノ成ルヘク不一致トナラサル様御留意アリタシ

207 昭和2年10月16日 在中國芳沢公使より
山本滿鉄社長より張作霖へ提出の東三省治安
維持に関する交換公文案および日中經濟提携
案について

第一〇九五号

北京 10月16日後發
本省 10月17日前着

往電第一〇九二号ニ関シ

タル頃之ヲ張作霖ニ通シタル旨ヲ洩ラシ

又交換公文經濟協定等ハ大連ニ於テ起草シ（斎藤理事起草）

タリト述ヘタリ惟フニ經濟協定及ヒ交換公文ハ実ニ張

作霖ヲシテ鉄道協約ヲ承諾セシメタル誘因タル事疑ヒ無ク

同社長ハ町野及ヒ江藤ニ右二文書ノ撤回ヲ命シタル旨本使

ニ語リタルモ（堀參事官及ヒ天羽書記官列席セリ）江藤ノ

談ニ依レハ社長ヨリスノ如キ命令ヲ受ケタル事ナク右二文

書ハ依然張ノ手許ニアリ從テ今後仮令政府ニ於テ十四日成

立ノ鐵道協約ヲ承認セラレ本交渉ヲ為ス場合ニ於テハ張ハ

直ニ前記二文書ヲモノニセムコトヲ提議スヘク其ノ場合帝

国政府トシテハ勿論之ニ応スヘキニ非ス張トシテハ右鐵道

協約ノ結果危險ニ対スル保障トシテ經濟協定及ヒ交換公文

案ニ張モ気ヲ置クハ必然ナリト思料セラル而シテ山本社長

トシテハ右二協約ノ如キハ政治的協約ナルカ故当然政府ニ

於テ交渉スヘキモノナリトシテ張ニ説明シ右二協約ヲ団ト

シテ鐵道協約ヲ獲得シタル考ナルヤモ計リ難シ

（一〇六文書）
本電ハ貴電第四五四号接到前出来上リタルニ付兎ニ角發送

ス

ノトシテ重キヲ置キ居レリトノコトナルニ付テハ後累ヲ貽
ササル為此ノ際至急取戻シ方右両人ニ電命セラルル様致度
シ

209 昭和2年10月18日 在北京本庄公使館付武官より
白川陸軍大臣宛（電報）

芳沢公使の鉄道交渉は対満政策遂行のため山

本・張鉄道協約を利用すべき旨の意見につい

て

支第六二六号
（10月19日外務省接受）
北 京 10月18日後発
陸軍省 10月19日前着

※

滿蒙交渉ノ経過ハ過日來屢次報告セシ通りナルカ抑モ政府ニ於テ明カリ方針ヲ決定シ閣議ニモ報告セラレ其ノ命令ニ基ツキ公使ニ於テ之カ大綱ヲ協定スヘク交渉ヲ開始スルニ當リ急遽滿鉄社長来燕シ直接支那側ト交渉ヲ始メ支第六二一号電報ノ如キ協約ヲ定ムルニ至レルコトハ啻ニ公使ノ面目ニ止マラス政府ノ威信ニモ関スヘク一般綱紀上ノ問題ナリ認メラル而シテ右協約成立ノ動機ハ張作霖、楊宇霆等カ公使其他ノ説得ニヨル田中内閣ノ対満政策ノ真相ヲ漸次

208 昭和2年10月18日 田中外務大臣より在奉天吉田總領事宛（電報）

東三省治安維持交換公文案および日中經濟提携案至急取戻し方山本満鉄社長へ転達につい

て 同右三案文書至急取戻し方特命

別電 十月十八日付田中外務大臣より在奉天吉田總領事宛第一五一号

本省 10月18日後発

第一五一号 別電本大臣ノ特命ニ依ルモノトシテ可然方法ニ依リ山本満

鉄社長ニ転達シ本電別電ト共ニ北京ニ転電アリタシ

（別電） 本省 10月18日後発

第一五一号 别電本大臣ノ特命ニ依ルモノトシテ可然方法ニ依リ山本満

鉄社長ニ転達シ本電別電ト共ニ北京ニ転電アリタシ

勅安

張作霖 啓十月十三日

210 昭和2年10月19日 在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛

満蒙鉄道に關する借款利率および付件協約並
びに借款利息別約写送付について
機密第一〇四三号
昭和二年十月十九日
(接受日不明)

在支那

特命全権公使 芳沢 謙吉(印)

滿蒙鉄道三閨スル借款利率及付件協約及借款

利息別約写送付ノ件

(二二三文書)
往電第一一三号ヲ以テ概報ノ滿蒙鉄道ニ閨スル借款利率
及付件協約及借款利息別約各写(日支両國文)別紙ノ通送
付ス

(別 紙一)
借款利率及付件協約
支那政府ト南滿州鉄道株式会社トノ間ニ左記ノ事項ヲ協定
付ス

第一条 借款利率ハ年八分トス但シ當該鉄道ノ利益金(利

益金トハ總収入ヨリ利息ヲ控除セサル總支出ヲ差引キタ
ルモノヲ指ス)カ毎年借款金額ノ百分ノ五ニ達スル迄ハ
借款利率ヲ年五分トシ利益金カ百分ノ五以上百分ノ八ニ
達スル迄ハ其利益金ヨリ年五分ノ利息ヲ支払ヒ其ノ剩余
額ノ半額ヲ利息トシテ支払フモノトス

第二条 各線ニ会計主任トシテ日本人ヲ傭聘ス
会計主任ハ本鉄道ニ閨スル一切ノ收支ヲ管理シ本鉄道ニ
閨スル支出ニ付鉄路局長ト連署ス

(別 紙二)

借款利息別約

借款利息別約ヲ左ノ通協定ス
借款利率及付件協約第一条ノ利益金カ年八分ノ借款利息支
払ニ不足ノ場合会社ハ特ニ利益金カ借款金額ノ百分ノ五ニ
達スル迄ハ借款利率ヲ年五分トシ百分ノ八ニ達スル迄ハ年
五分ノ利率ノ外利益金剩余额ノ半額ヲ利息ト為スコトヲ承
諾セル為会社ニ於テ利息損失ヲ蒙ルニ付政府ハ利率年六分
五厘ニ達スル迄更ニ利益金剩余额ノ内ヨリ其損失ヲ補充ス

211 昭和2年10月19日 在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛

鐵道問題の円満解決を希望する旨の田中總理

大臣宛張作霖書簡について

機密第一〇四四号

昭和二年十月十九日

在支那

特命全権公使 芳沢 謙吉(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

(三二二文書) 田中總理宛張作霖書簡写送付ノ件

往電第一一一二号ニ閨シ張作霖カ山本滿鉄社長ニ托シタル

田中總理宛書翰写別紙ノ通送付ス

(別 紙)

田中總理閣下逕啓者山本社長來京具述

尊意对于彼此意見疎解良多關於東省鉄路之事暢談一切深願
以誠意商榷期于円満解決已飭所司本此意旨一体進行俾敦睦
誼茲緣山本社長帰國在即特囑面陳壹是耑泐敬頌

田中總理閣下逕啓者山本社長來京具述

張鉄道交渉

212 昭和2年10月20日 在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

十月十日より同月十七日までの鉄道交渉経緯

に関する江藤豊二の談話要領について

(接受日不明)

北京 本省 10月20日前着 発

第一一二号(極秘)

貴電第四五七号ニ閨シ

江藤ノ談話要領左ノ通

(一)十日山本社長着燕後間モ無ク江藤及ヒ町野ハ滿蒙問題ニ
對スル支那側ノ意向内査方ヲ命セラレ張作霖ヲ訪問セシカ
張ハ本使ト會見中ナリシ為(往電第一〇七一号参照)楊宇
霆ニ会見シ鉄道問題ニ付会談セシニ楊ハ激烈ニ反対シタル
ニ付同夜山本社長ニ復命シタル處同社長ハ悲觀シテ張ニハ
一遍ノ挨拶ニ止メ翌日北京ヲ引揚クル事ニ決定シ其準備ヲ
命シタリ

(二)十一日午前江藤及町野ハ張作霖ニ面会シ鉄道問題ニ付談
合シタルニ張ハ吉会长大洮索線ニ對シ直ニ贊成シ海林延吉
線吉林五常線ニ對シテハ一応躊躇シタルモ江藤等ヨリ海林

線ハ露國ト事ヲ構フル際東支鐵道ノ中腹ヲ突キ浦潮トノ連絡ヲ絶ツ要線ニシテ五常線ハ北満ノ開發上必要ナル理由ヲ挙ケタルニ張モ露國ニ對スル鐵道ニ贊成ナリトテ承認シタルカ同時ニ張作相ヲシテ右諸線ヲ承諾セシムルカ為ニハ海吉線ノ敷設ヲ認メサルヘカラストテ同線ニ對スル日本側ノ反対撤回ヲ要求シ打通線ハ通遼以北ニ延長セシメサルモ現在ノ工事ノ中止ハ承認シ得スト頑強ニ反対セリ

林西線ハ予テ支那側ニ於テ敷設ノ意向ヲ漏セルカ故ニ満鉄側ヨリハ別段問題トセス新邱線ハ張作霖ニ於テ飽迄反対シ洮昂線ノ「マルコン」延長ニ對シテハ吳俊陞ノ關係アリトテ承認セス尚其際張ハ鐵道問題ニ付楊宇霆ト交渉スル時ハ問題ヲ複雜ニスルヲ以テ楊ニ對シテハ利率問題以外ハ話スヘカラス自分（張）トノ交渉纏リタル後楊ヲ押シ付クヘシト注意シタリ次テ江藤及町野ハ交換公文及經濟協定問題ニ付談合シタリ

同日午後社長ハ張作霖ト鐵道問題交換公文及經濟協定ノ問題ニ付会談シタルニ張ハ鐵道三付テハ先程江藤及町野ニ為セル言明ヲ確認シ（張作霖カ海吉線ニ對スル日本側ノ反対撤回ヲ要求シタルニ同社長ハ之ニ對シ

⁽¹⁾三文書
案成立セリ（別電第一一三号）同日午後社長ハ離京挨拶旁張ヲ訪問シ鐵道協定案ニ調印セシメントセシカ張ハ調印ヲ肯セス田中總理ニ對シ鐵道問題ニ關シテハ誠意ヲ以テ商議シ円満ニ解決センコトヲ希望シ既ニ所屬官憲ニ對シ此ノ趣旨ニ依リ一樣ニ進行セシムル様命シ置キタリ山本社長ノ帰國モ近キコトトナレハ同社長ヨリ閣下ニ面陳方依頼セリトノ趣旨ノ書翰ヲ（写郵送ス）山本ニ交付シ同夜社長退京セリ

⁽²⁾四文書
五十四日午後江藤町野ハ張作霖ニ對シ鐵道協約案ニ調印ヲ迫リシカ偶々楊宇霆來リ会ハシ張楊間ニ大激論アリ結局楊ノ主張ニ依リ原案ニ修正ヲ加ヘ話纏マリタリ（往電第一〇九二号及第一一四号参照）其ノ際楊ハ町野ニ對シ鐵道ノ主要駅ニ商埠地ヲ設定スルコトハ出來ル限り尽力スヘキ旨ヲ約セリ

⁽³⁾四文書
十五日江藤及町野ハ張作霖ニ對シ協約案ニ調印ヲ要求セシカ張ハ調印セシシテ協約案ノ上ニ閱ト書キ又楊宇霆ハ町野カ紙面ニ「各鐵道ノ主要駅ヲ商埠地ト為スコトニ關シ好意的尽力ヲ為スコトヲ約ス」ト認メ之ヲ示シタルニ確カニ承認セル旨言明シタリ

別ニ反対ノ意思ヲ表示セサリキ）交換公文ニ關シテハ日本ハ從来滿州ノ治安維持ニ付二度声明スル所アリ公使ヨリモ同様ノ約束アリタルカ日本政府ハ治安亂レ居ル際ニ何時モ約束ヲ實行セサルカ故ニ確實ナル保障ヲ得ル必要アリト述へ經濟協定ニ關シテハ二十一箇条ノ一部ノ廢止及治外法權ノ撤廃ニ關係スル点ニハ贊成セルモ滿蒙ヲ各国人ニ開放スルコトニハ反対シ結局極メテ重大問題ナルカ故ニ楊宇霆ト相談スヘシトテ逃ヶタリ

十一日夜（十二日午前トノ説アリ）張作霖ハ楊宇霆ト交換公文及經濟協定ノ問題ニ付長時間ニ亘リ協議ヲ遂ケタルカ其際楊ハ主トシテ商租及滿蒙開放ニ對シ激烈ナル反対ヲ為シタリト云フ

（三）十二日午後社長楊宇霆ト會見專ラ借款利率問題ニ付交渉ヲ遂ケタルカ遂ニ纏マラス別レタリ同夜張作霖ハ鎌田ニ對シ第二奉直戰ニ當リ馮玉祥寢返リノ際滿鉄ヨリ張ニ貸与セル馮買收費二百四十万円ノ担保トシテ張作霖ヨリ満鉄ニ差入レタル蒙古所有地（千五百万円ニ相当ス）ノ地券ノ返還ヲ要求シ暗ニ貸金ノ決済ヲ仄カセリ

（四）十三日朝江藤町野ハ楊ト利率問題ニ付交渉ヲ統行シ妥協（五）町野ハ十六日右協約案ヲ携ヘ大連ニ向ヒ十七日山本社長ニ手渡シタリ

（六）張及楊ハ今回ノ鐵道交渉ニ關シ國務院及國民ノ反対ヲ理由トシテ正式ニ調印スルコトヲ肯セス北京ニ於テハ右程度ノ了解ニ止メ直ニ張作霖ヨリ張作相ニ命令シ滿鉄ト吉林当局トノ間ニ細目ノ協定ヲ為サシムル意向ヲ洩シタリ

（七）今回交渉ノ經緯ヨリ考究スルニ張作霖ハ專ラ自己ノ立場ヲ考慮シ自己ノ地位擁護ノ為ニハ鐵道ノ敷設ニ對シテモ容易ニ応スル意向アリ例ヘハ町野及江藤ヨリ張作霖ニ對シ今日本ノ要求ニ応セサル場合ハ今後張ニ對シ何等ノ援助ヲ為ササルノミナラス進テ張ヲ亡ホスコトヲ厭ハサル意向ヲ仄カシタル結果大ニ動キタル節アルニ反シ楊宇霆ハ自己ノ立場ヨリモ國家ノ将来ヲ考慮シ右ノ如キ鐵道ヲ敷設スルニ於テハ将来民衆ノ反感ヲ買ヒ日支兩國間ニ葛藤ノ種ヲ播クモノニ外ナラストノ意見ニテ強く之ニ反対シタリ右ノ次第ニテ鐵道問題ハ交換公文及經濟協定ノ問題トハ全然別個ノ關係ニテ之ノミ引離シ交渉ヲ進メ得ルモノナリ云々

別電ト共ニ奉天ヘ転電セリ

昭和2年10月20日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛（電報）

山本・張鐵道協約の借款利息および付件協約
の概要について

第一一三号（極秘）

本省 10月20日前着 発

借款利息及ヒ付件協約ノ概要左ノ通

第一条、借款利率ハ年八分トス但シ當該鐵道ノ利益金カ毎

年借款金額ノ百分ノ五以上百分ノ八ニ達スル迄ハ其利益金

ヨリ年五分ノ利率ヲ支払ヒ其剩余額ノ半額ヲ利息トシテ支

払フ

第二条、各線ニ会計主任トシテ鐵道ニ關スル一切ノ收支ヲ

管理シ且本鐵道ニ關スル支出ニ付鐵路局長ト連署ス

借款利息別約概要左ノ通

前掲協約第一条ヲ承諾シタル為會社ニ於テ利息損失ヲ蒙ム

ルニ付政府ハ利率年六分五厘ニ達スル迄更ニ利益金剩余額

ノ内ヨリ其損失ヲ補充ス

奉天ニ転電セリ

（欄外記入）各線ニ会計主任トシテ日本人ヲ傭聘ス会計主任ハ……（公信

ト思考ス

(一) 貴電ノ如ク此際滿鉄ト張作霖トノ交渉ニ頓着ナク既定ノ

御方針ニ依リ交渉ヲ開始スルコトトスルモ

(イ) 支那側ニ於テハ最近迄政友会幹事長トシテ總裁ノ帷帳

ニ參画シ現在滿鉄社長ノ要職ニ在ル山本ノ行動ヲ以テ
帝国政府ニ全然關係ナキモノト信セサルカ故ニ山本ノ
交渉ニ頓着ナク我交渉ヲ進ムルコトハ徒ニ日本部内ノ

不統一ヲ暴露シ支那側ヲシテ其間隙ニ乘シ種々ノ術策

ヲ弄セシムル余地ヲ与フル危険ナシトセス

(ロ) 今日山本カ兔ニ角鐵道問題ニ付協議ヲ纏メタルハ張作

霖ニ対シ威喝ニ加フルニ贈賄ヲ仄メカシ咄嗟ノ間ニ其

ノ諒解ヲ取付ケタルモノナルカ故ニ今本使ニ於テ改メ

テ交渉ヲ開始スルトキハ過日ノ経過ト共ニ張自身ハ兔

ニ角楊宇霆一派國權論者ノ反対論台頭シ來ルヘク又正

式ニ協定ヲ為ストスレハ國務會議ニ付議スル必要アル

ヘキカ今日國務院ノ狀況ニ鑑ミレハ纏マル見込少ナク

且ツ時日ヲ要スルコト疑ヒ無シ本件ノ如キ交渉ハ迅速

ニ纏ムルヲ可トス然ラサレハ種々ノ故障ヲ生シ結局不
調ニ終ル虞アリ

昭和2年10月20日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛（電報）

鐵道交渉は山本・張協約の利用が得策との意

見具申

北京 10月20日後発

本省 10月20日後着

第一一一三号（極秘）

本省 10月20日前着 発

（欄外記入）第一一一五号
（三〇文書）貴電第四五四号ニ関シ

（一）御訓令ノ次第ハ本使ニ於テ即時之ヲ執行スヘキ筋合ナル
ノミナラス御表示ノ次第ハ固ヨリ正論ニシテ誠ニ御尤モ

ト存ス唯本件ノ如ク交渉ノ第一線ニ立ツモノトシテハ相

手ノ心理狀態ヲモ察シ交渉ノ成否如何ヲ考フル必要アリ

右ノ見地ヨリ篤ト考慮スルニ今回山本ノ為シタルコトヲ

一言テ批判スレハ交渉其ノモノハ不都合ナルモ交渉ノ結果

ニ就テハ鐵道協約ニ關スル限り免ニ角我政府ノ收穫タ

ルニ相違ナシ之故ニ滿鉄社長カ事前ニ政府ノ承認ヲ得ル

コトナク外交上重大ナル交渉ヲ為シタル廉ニ就テハ政府

ニ於テ相當ト認メラル措置ニ出テラルヘク又鐵道協約

ニ就テハ出来得ル丈ヶ之ヲ利用シ活用セラルコト得策

（二）山本ハ交換公文案案及日支經濟協定案ノ二者ハ鐵道協約ト
全然關係無キ別個ノ者ナリト言明シ居ルモ最初山本ニ於
テ之ヲ鐵道問題ノ因トシタル關係モアリ支那側ヨリ抗議
シ来レルヤモ計ラレサル處交換公文ニ對シテハ張作霖ニ
於テ更ニ一步ヲ進メテ我方ヨリ一層明確ナル援助ノ保障
ヲ得ム事ヲ主張シ居ル由ナルモ此種交換公文ノ趣旨ハ書

面ニ依ル事ハ避ケルヲ可トスヘク又經濟協定ニ對シテハ
支那側ニ於テハ滿蒙開放ノ点ニ於テ反対スルモ二十一個

条ノ一部廢棄及治外法權撤廃問題ニ關連スル為乘氣トナ
リ居ル由ナルモ此二者ニ付テハ適當ノ理由ヲ付シテ張ヲ

シテ断念セシムルヨリ致方無シ

（四）滿蒙交渉ニ付テハ一旦閣下ノ御懇命ヲ拝シタル本使トシ

テハ今更事柄ノ難易ヲ問フ次第ニハ非ス只山本ノ介入ノ結果ハ内外ニ対シ予想セサリシ事態ノ変化ヲ齎シ殊ニ對支那ノ關係ニ於テハ山本交渉ノ結果ニ於テ不足ノ点アリ

トスルモ暫ク之ニ満足シテ先ツ其成果ヲ我ニ於テ収穫スルノ國家ノ大局ニ顧ミテ已ムヲ得サルヲ思ヒ貴電交渉即開ノ御訓令ニハ接シタルモ尚一応以上各項ノ箇条篤ト御考慮ヲ仰キ度シ

215

昭和2年10月21日

田中外務大臣より
山本満鉄社長宛

鉄道協約、東三省治安維持に関する交換公文、日中經濟提携など張作霖との直接交渉に關し山本満鉄社長に対する注意喚起について
付記一 東三省治安維持に関する交換公文案に対する意見
二 日中經濟協定案に関する意見
機密第一八四〇号

昭和2年10月21日

外務大臣男爵 田中 義一

南滿州鐵道株式会社社長 山本 條太郎殿
鐵道問題ニ關シ張作霖ト満鉄社長トノ交渉ニ

關係無キ問題ニシテ而カモ幾多重要ナル外交上ノ諸問題ヲ包含シ政府トシテモ慎重ナル攻究ヲ加へテ後初メテ決定シ得ヘキ性質ノモノタリ貴社長ニ於テハ特ニ此点御留意ノ上将来トモ外交ノ体系ヲ素リ外交ニ容喙スルカ如キ非難ヲ招ク虞有ルノ行動ハ部下ニ対シテモ御注意置相成度

(付記一)

東三省治安維持ニ關スル交換公文案ニ対スル

意見

一、東三省治安維持ノ為必要アル場合ニハ適當ノ措置ニ出ツル覺悟アルヲ要スルコトハ東方會議ニ於テ田中外務大臣ノ訓示セラレタル所ナリ
一、然レ共右ハ帝国ノ必要ト認ムル場合ニ於テ自ラ適當ト認ムル措置ヲ自衛權ニ基キテ執ルベキモノナル處本案ニ於テハ此ノ場合民国當該官憲ト協議ヲ遂クヘキモノトス之帝国ノ行動ヲ不当ニ束縛スルモノト云ハサルヘカラス一、加之民國當該官憲ト協議スルト云フモ事実ニ於テハ東三省現在ノ實權者タル張作霖側ト協議スルコトナリ勢

関スル件

芳沢公使ノ報告ニ依レハ今回貴社長北京滯在中張作霖トノ間ニ東三省ニ於ケル鐵道ニ關シ協約締結方ヲ協議セラレ之ト同時ニ東三省治安維持ニ關スル公文交換方及日支經濟協定締結方ヲモ提議セラレタル趣ノ処

一、今次ノ滿蒙交渉殊ニ鐵道問題ニ關スル政府ノ方針其他ハ曩ニ七月二十六日付亞一機密第一三一七号拙電及九月三十日貴社東京支社長ヲ通シ転達シタル書類ニ依リ疾ク

御承知ノ通リニ有之政府トシテハ夙ニ本件ニ關スル交渉ノ方針ヲ確定シ連絡上遺憾無カラシムル為メ關係書類ハ其都度之レヲ貴社ニ送付シ置キタル次第ニシテ殊ニ三天羽書記官北京赴任ノ際ニハ特ニ奉天ニ立寄ラシメ當方ノ意向ハ逐一之レヲ松岡副社長ニ説明セシメ置キタルヲ以テ

政府ノ方針ハ充分貴方ニ於テ諒知セラレ居ル筈ナリ然ルニ貴社長ハ今次北京行ト共ニ政府若ハ芳沢公使ニ何等ノ協議モ將又通知モ無ク突如支那側ニ對シテ鐵道ニ關スル交渉ヲ開始セラレタルハ貴案ノ内容如何ハ兎ニ角交渉ノ手筈ニ齟齬ヲ生セシメタルノ譏ハ之ヲ免ルコトヲ得ス二、殊ニ他ノニ提案ニ至ツテハ満鉄ノ所管事項トハ何等ノ以テ支那官憲ト協議スルコトノ穩當ナラサル場合多カルヘシ

一、本案ノ内容ニ於テ既ニ右ノ如キ欠点アル外一般論トシテ此ノ種ノ事項ヲ正文ノ約定トナシシカモ鐵道問題ト同時ニ之ヲ協定スルトキハ外部ヨリ之ヲ以テ一方張作霖援助ヲ約スル共ニ他方東三省ニ對スル一種ノ保護權ヲ設定シタルモノノ如ク誤解セラレ從來帝国政府ノ声明セル内政不干涉主義ニ反シ又華盛頓九國條約ニ定ムル支那ノ主權及領土尊重ノ原則ニモ悖ルモノトシテ各方面ヨリノ非難ヲ受クル虞アリ
一、尚本案ハ治安ヲ乱ス原因カ内部ヨリ來ルト外部ヨリ來ルトヲ問ハスト記載シアリ之固ヨリ外務大臣ノ東方會議ニ於ケル訓示ト趣旨ヲ同フルモノナリト雖外部ヨリ來ルモノニ対シテモ治安維持ノ為日本カ措置ヲ執ルコトア

ルヘキヲ予メ支那側ト協定スルハ恰モ第三國ニ對スル日
支防衛同盟約定ノ如ク解セラル虞アリ帝国ノ友邦タル
第三國ニ對スル關係上面白カラサル結果ヲ生スヘシ
一、仮リニ本案ノ如キ公文交換ヲ行フトセハ之カ手続トシ
テハ事前ニ於テ枢密院ニ御諮詢ノ上御裁可ヲ経ルコトヲ
要スヘシ

(付記二)

※ 日支經濟協定案ニ關スル意見

一、大正四年南滿州及東部内蒙古ニ關スル條約ノ諸規定中
現ニ事實上効力ヲ持続スルモノハ第一條ニ規定スル旅大
租借及南滿安奉兩鐵道期限延長ノ外土地商租並居住往
來及營業ノ自由ノミナリト称シ得ヘキヲ以テ右條約ヲ其
ノ第一條ヲ除ク外廢棄シ大体本案ノ如キ條約ヲ以テ之ニ
代フルハソレ自體別ニ異議ナカルヘキ次第ナルモ斯クノ
如キ條約ヲ此ノ際東三省治安維持ニ關スル約定及鐵道協
定ト共ニ締結スルコトハ政治的影響ニ付充分考慮ノ要ア
ルヘシ

一、本案ノ實効ニ付考フルニ大正四年ノ條約スラ今日實際

撤廢問題ト関連スルヲ以テ後日機会ヲ見テ解決スルヲ適
当トナシ今次ノ滿蒙縣案交渉ヨリ特ニ之ヲ除外シタル經
緯アリ

一、尚此ノ種ノ條約ヲ張作霖トノ間ニ協定スルトキハ東三
省ノ實權者タル張ヲ相手トシタルモノノ如ク推断セラレ
日本ハ東三省ヲ支那本部ヨリ引離シ独立ノモノトナシ依
テ支那ノ統一ヲ破ルモノナリトシテ南方派ヨリ非難セラ
ルルノ虞アルヘシ

216 昭和2年10月22日 在北京本庄公使館付武官より
白川陸軍大臣宛(電報)

山本滿鉄社長の行為は穏當とは認め難いが山
本・張鐵道協約は日本政府の意志として確認
せしむること肝要であるとの松井顧問の意見

具申

付記 日付不明 南參謀次長より在北京本庄公使館付

武官宛電報案
政府間の正式交渉に當り外務省側と滿鉄側との
諒解を図ると共に極力芳沢公使を援助すべきこと
について

北京 10月22日発

上実施ニ至ラサルモノ尠カラサル状態ナルニ今斯クノ如
キ大正四年ノ條約ト同程度ノ概括的條約ヲ設クルモ将来
何ノ程度迄実行セラルヤ疑ナキ能ハス殊ニ今張作霖ヲ
相手トシテ協定スルモ後日張ノ勢力失墜スルカ如キコト
アル場合此ノ種條約ノ運命ハ甚々危キモノアルヘシ

一、本案ハ治外法權ヲ撤廢スルモノナリヤ否ヤ明瞭ナラス
ト雖若シ之カ撤廢ヲ包含スルモノトセハ支那一般ニ對ス
ル治外法權無条件撤廢ノ先例トナラサル為撤廢ノ條件ヲ
定ムル詳細ナル規定ヲ設クル要アルヘシ加之本案ハ一般
外国人ニ適用セラル趣旨ナル處日支間ノ條約ニ依リ他
国人ノ治外法權撤廢ヲ規定シ得サルハ言ヲ俟タス又關係
諸外國ノ參加スル條約トナスコトハ現状ニ於テハ事實上
極メテ困難ナルヘシ斯クシテ日本人ノミニ適用セラルル
ノ規定トナラハ日本人ノミ特殊ノ利益ヲ享受スルコトト
ナリ機會均等ノ原則ニ反スルノミナラス此ノ種ノ利益ノ
許与及鐵道協定ト共ニ治外法權ノ撤廢ヲ承諾スルトキハ
ノ規定トナラハ日本人ノミ特殊ノ利益ヲ享受スルコトト
ナリ機會均等ノ原則ニ反スルノミナラス此ノ種ノ利益ノ
許与及鐵道協定ト共ニ治外法權ノ撤廢ヲ承諾スルトキハ
トスル華盛頓會議決議ノ趣旨ニ反スルコトナルヘシ
撤廢ニ付特殊ノ利權、恩典、利益等ヲ条件トスヘカラス

一、本案ノ主眼タル土地商租及内地雜居ノ問題ハ治外法權

支第六四一号

陸軍省 着

松井顧問ヨリ

鐵道問題ノ交渉ニ關シ山本社長ト会談ノ結果社長カ真ニ最
善ト信シ實行シタル熱誠ト絶対ニ秘シ置キ公使ノ交渉ニヨ
リ正文トナリタル後ニ於テ初メテ有効トナサントスル用意
トハ小官モ之ヲ認メ公使ニ話シタル所公使モ社長ノ行為ハ
穩當トハ認メ難ク綱紀ノ上ヨリモ不快ニ感スルモノニシテ
事前ニ若シ詳細相談ヲ受ケタリトセハ自分トシテハ承認ヲ
与ヘ難シ然シ事實ハアア云フヤリ方カ一番好結果ヲ齎シ得
可ク結果ニ於テ大成功ニシテ之ヲ有効ナラシムルハ必要ト
認メアリ又支那側ニ於テハ社長ノ交渉ハ即チ日本帝国ノ意
志ト認ヌアルヲ以テ之ヲ確認セシムル様ニスルコト肝要ニ
シテ之カ為ニハ今後ノ交渉ハ鐵道問題ハ解決ノ如キ形態ト
ナシ置キテ交渉ヲ止メ速ニ他ノ懸案ノ交渉ニ移リ而シテ最
後ニ一括シ正文トナス時ハ極メテ單簡抽象的ニシテ問題ハ
共存共榮ノ見地ニ於テ相互誠意ヲ以テ速ニ解決スル方針ヲ
以テ滿鉄ヲシテ直接之ニ当ラシムル位ノ文句ニテアツサリ
片付クルヲ可トセン若シ公使ヲシテ更ニ同様ナル交渉ヲ為

サシムル時ハ日本ノ不統一ヲ暴露シ結果ハ必ス不良ナル可シ

※電報案（暗号）極秘
（付記）

（日付不明）

満鉄社長ト支那側トノ交渉顛末ハ屢次ノ詳電ニ依リ承知セリ鉄道問題ノ大綱カ案外容易ニ片付キタルハ貴官等ノ側面的援助モ与ツテ力アリタルモノト推測セラレ満足ノ至ナリ唯今次ノ内交渉カ事前ニ公使ト充分ノ諒解ナク且ツ鉄道問題ノミナラス満州ノ治安維持乃至経済問題等ニ迄瓦リタルハ明カニ満鉄トシテ職權ヲ超越シタルモノニシテ殊ニ右二種ノ公文カ鉄道交渉ノ好餌ニ供セラレタルヤノ感アリテ之カ為公使ノ正式交渉ニ悪影響ヲ來スヘキヤノ虞アリ此点芳沢公使ハ勿論外務當局ニ於テモ其責任上不少当惑ノ体ニ見受ケラル今回ノ交渉カスル行方ヲ採リタルニハ相当ノ理由アルヘキハ推察シ得ル所ナルモ今後ニ於テ万々關係各方面ノ協力円滑ヲ欠キ惹テハ支那側ニモ一種ノ疑懼心ヲ起サシメ折角成立シタル非公式協約ヲ今一息ノ所ニテ不成功ニ終ラシムル如キコトアリテハ國家ノ為誠ニ遺憾至極ニテ外相

アルヘキハ推察シ得ル所ナルモ今後ニ於テ万々關係各方面ノ協力円滑ヲ欠キ惹テハ支那側ニモ一種ノ疑懼心ヲ起サシメ折角成立シタル非公式協約ヲ今一息ノ所ニテ不成功ニ終ラシムル如キコトアリテハ國家ノ為誠ニ遺憾至極ニテ外相

既成鉄道協約ヲ根底ヨリ覆ヘササル希望ヲ以テ過日公使ニ宛テ電報セシ次第ナリ）右次第故今後政府間ノ正式協約ニ当リテハ貴官カ外務側ト満鉄側トノ間ニ立チテ両者ノ充分ナル諒解ヲ図リ同時ニ支那側ト公使トノ間ニ在リテ極力公使ヲ援助シ貴電第六二五、六二六号ノ意見ノ次第モアルモ

支那側ノ事情如何ニ拘ハラス此際飽迄モ芳沢對張作霖ノ正式協約ヲ表向キ成立セシムルコト必要ニシテ又此大切ナル役目ハ行懸上貴官ヲ以テ最適任ト認メラルニヨリ松井顧問等トモ協力シ最後ノ目的ヲ達スル為充分尽力アランコト切望ニ堪ヘス

217 昭和2年10月26日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛（電報）
東三省治安維持に関する交換公文案および日
中經濟提携案の二文書張作霖より取戻し方に
関する江藤豊二の談話について

北京 10月26日後発
本省 10月26日後着

付記一

十月二十九日付出渾外務次官より有田亞細亞
局長宛書簡

滿蒙鉄道大綱に関する出渾外務次官腹案

二 十月三十一日記

渾蒙鉄道問題に関する山本満鉄社長・出渾外務次官他会談要旨

本省 11月7日後発

第四九二号

（三〇六文書）往電第四四五号ニ閑シ山本社長ヨリ交渉ノ経緯詳細聴取シ

タルカ同社長ノ措置ニ宜シキヲ得サル点有リシコトハ自身ニ於テモ之ヲ認メ申訟無ント申シ居リタリ依テ将来ニ就キテハ然ルヘク注意シ置キタルニ付右御含置有リタシ次ニ鉄道問題ノ善後措置ニツキテハ本大臣ニ於テモ具ニ考究ヲ遂ケタル處ナルカ結局貴官ト張作霖トノ交渉ハ鉄道ノ関スル限り此際之レヲ打切り満鉄社長ヲシテ張トノ諒解ニ基キ引続キ請負契約締結ニ努力セシムルコトニ決定セリ

元來鉄道建設問題ノ如キハ之レニ対スル張ノ誠意ノ有無カ問題ニシテ若シ誠意サヘ有ラハ満鉄社長ノ持チ帰リタル開字有ル協約案ニテモ充分ナルモ誠意無キモノトスレハ如何ニ張ヲシテ正式文書ニ署名セシムルモ請負契約締結ノ段取

218 昭和2年11月7日

田中外務大臣より
在中國芳沢公使宛（電報）

鉄道問題に関しては山本満鉄社長をして引き続キ請負契約締結に努力せしむることに決定
について

別電 十一月七日付田中外務大臣より在中國芳沢公使宛第四九三号

張作霖・芳沢公使間往復書簡案

ニ至リテ兎ヤ角理屈ヲコネテ実行ヲ肯セサルヘキハ過去幾多ノ例ニ徵シテ明カナリ然ルニ満鉄社長ハ張作霖トノ間ニ充分ノ諒解出来居リ仮令文書ハ不備ナリトモ之ニ基キ張ヲシテ請負契約ヲ締結セシムルニ充分ナル確信有リトノコトナルニ付政府トシテハ寧ロ之レニ手ヲ触レス暫ク成行ヲ見ルコトスル方諸般ノ関係上然ル可シト認メ上記ノ如ク決定セル次第ナリ但シ打通吉海両線ニツキテハ日支間ノ協約及諒解事項ノ違反トシテ從来我方ヨリ厳重抗議シ來レル行掛ニ顧ミ政府トシテハ本件ヲ有耶無耶ト為スコトハ将来ニ悪影響ヲ及ホス虞有ルニ付打通吉海ノ問題タケハ之レヲ引離シ張作霖ヨリ貴官ニ対シ諒解ヲ求ムル書面ヲ發セシムルコト必要ナリト思考シタルモ此際右ノ如キ書翰ヲ取付ケムトスルニ於テハ楊宇霆等反対派介入ノ機会ヲ与ヘ事態ヲ紛糾セシメ万事ヲ水泡ニ帰セシムル虞有リトノ満鉄社長等ノ意見モ有リタルニ付暫ク之等ノ意見ヲ容レ別電第四九三号ノ如キ主旨ノ書翰ヲ貴官ト張トノ間ニ交換セシムルコトトセリ

張ヲシテ右書翰ヲ発送セシムルカ為メニハ貴官ニ於テ直接交渉スルヨリモ從来ノ關係上町野江藤ヲシテ貴官ト張作霖前記東方會議ノ主旨ヲ敷衍説明シ（本庄帰任ノ際同官ヲシテ本大臣ヨリノ伝言トシテ張ニ伝ヘタル主旨参照）我方主意ヲ徹底セシムル様最善ノ努力ヲ尽サレ度右ハ追テ支那側ト協議スルコト有ルヘキ経済提携日支共存共榮ノ為メニスル具体的諸問題解決ノ素地ヲ作ルノ意味ニ於テ本大臣ノ最モ重キヲ置キ居ルトコロナリ

次ニ貴官ハ鉄道問題ニ言及シ大体満鉄社長トノ間ニ話合有リタル上ハ貴官トシテハ此際別ニ之レニ触ルルノ要ヲ見サルモ其誠意有ル實行ヲ望マナルヲ得スト述ヘ予テ町野等ヲシテ打合ハサシタル如ク書面ノ提出ヲ求メラル様致度將又帽兒山分館盛京時報不法課税等ノ懸案ニ至ツテハ右張トノ會見ニ於テ或ハ其後ノ最先ノ機会ニ於テ大体意見ノ交換ヲ行フヘキモノナルトコロ帽兒山ニツキテハ既電ノ通り又盛京時報ニツキテモ中島真雄ノ赴奉ヲ機トシテ組織ノ改変ニツキ打合セヲナサシメ居ル様ノ次第二付貴官ノ裁量ニ依リ右我方ノ態度ヲ適宜説明スルニ於テハ先方ニ於テモ大

トノ間ニ立チテ然ル可ク斡旋セシムル方捷径ナルヘシ此点ニツキテハ満鉄社長ヨリモ町野江藤ニ電命セシムヘキニ付貴官ニ於テモ直接同人等ヲ指導シ張作霖ヲシテ前記書翰ヲ發送セシムル様仕向ケラレ度

鉄道問題カ右ノ如ク満鉄ノ處理ニ委セラルルトスレハ所謂満蒙交渉トシテ差当リ支那側ニ交渉スヘキ具体的問題ハ帽兒山分館問題盛京時報不法課税ノ諸問題ニ過キサルコトト相成ヘキモ從来現政府ノ満蒙政策ハ此等地方ノ秩序ヲ完全ニ維持シ此等地方ヲシテ内外人安住ノ地タラシムルト同時ニ安全ナル經濟發展ノ地タラシメ彼我共ニ其ノ患ニ浴セムコトヲ期スルニ在リテ東方會議ニ於テ満蒙交渉ノ主眼ナリト諒解セラレタルトコロハ張作霖ヲシテ其ノ東三省ニ於ケル過去現在及将来ノ地位ト共ニ以上ノ主旨ヲ充分ニ諒得セシメ以テ肝胆相照ラスノ域ニ達セムトスルニ存シタルコト御承知ノ通リニシテ鉄道問題ノ如キハ右ノ如キ諒解ニ達シタル上差當リ彼ヲシテ實行セシメントシタル具体的問題ノ一タルニ過キサリシナリ貴官ハ曩ニ張作霖ニ面会縷陳シタルコト有ルモ前記ノ如キ諒解ノ域ニ達スルニ至ラスシテ鉄道問題ノ交渉ニ移リ間モ無ク交渉中止トナリテ今日ニ至リ就テハ前記ノ諸点御含ノ上然ルヘク御措置相成度シ右當方ノ予期スル如ク取運フニ於テハ東方會議ニ基ク所謂滿蒙交渉ナルモノハ茲ニ一步ヲ進ムルコトト相成ルヘキトコロ御承知ノ通リ外部ニ於テハ満蒙交渉就中鉄道問題ノ成行ニツキ尠カラス注意シ居ルコトナレハ具体的成果ヲ收ムルコト少キ前記ノ如キ状態ニテハ世間ヨリ種々ノ推問ニ接スヘキハ予想ニ難カラサルトコロ右ニ三対シテハ「満蒙交渉再開シタル一二回ノ話合ニテ張トノ間ニハ充分諒解出来タリ」ト簡単ニ説明シ鉄道問題ノ結果等ニツキ推問スル者有ル場合ニハ交渉ノ内容ハ之レヲ言明スルノ時期ニアラサルモ其内具体的事実トナリテ現ハルル事有ルヘシト答フルニ止メ置カレ度シ為念

第四三号

案ヲ得候他山ノ右トシテ老兄立案上御参考之一端トナルヲ
得ハ幸甚

大綱ハ半公信交換之仕組トスルコト即チ

(甲) 張作霖ヨリ芳沢公使宛書翰案

拝啓陳者滿蒙開発ニ関スル田中総理ノ御意見ハ閣下並ニ最
近來燕セラレタル山本満鉄社長ヨリ具ニ拝承シ彼我ノ意見
疏通スル所甚タ多キヲ喜ヒ居リ候東三省ニ於ケル貴我間鐵
道諸問題ニ付テハ過般山本社長來燕ノ際同社長トノ間ニ成
立シタル協議ヲ基礎トシ円満解決ヲ期シ目下當局ニ命シ一
般進行ヲ図リ居リ猶ホ其他ノ滿蒙開発ニ關スル諸案モ誠意
ヲ以テ協議ヲ重ね度此段得貴意候 敬具

(乙) 芳沢公使ヨリ張宛答翰案

拝啓陳者 月 日付貴翰ヲ以テ御申越ノ趣敬承鐵道問題ニ
關シ閣下ト山本社長トノ間ニ成立シタル協議ヲ基礎トシテ
万事円満解決ヲ期セラルニ於テハ自分ニ於テモ異議無之
候ニ付右様御承知相成度此段回答得貴意候 敬具

(付記一)

舌代

昨夕御相談申上候鐵道大綱之件篤ト考慮シ結果左ノ如キ腹

(一) 鉄道建設ヲ支那側自發ノ形式トシ張ノ対内關係及ヒ我帝
國ニ對スル立場ヲ樂ニスルコト

(二) 半公信トセルハ國務院等ノ手続ヲ省略スル便宜ヲ慮レル
コト

(三) 山條案末項ノ公使確認ハ公ノ手續トシテハ實行困難ナル
コト

(四) 公ノ手續ハ個々ノ請負契約ノ確認丈ニ止ムルコト即チ吉

右之仕組ハ

過般山本社長昭和二年十月下旬上京二十八日(金)出淵外務

次官ヲ來訪シ過般ノ北京ニ於ケル張作霖トノ交渉ニ關シ同

氏今回ノ措置ノ誤リ居タルコトヲ自認シ且予メ同氏ニ於テ

此ノ方針ヲ決定シ居タル次第ニ非ス唯北京ニ於テ張作霖ト

接觸ノ結果調子良ク行キサウナル様子見エタルヲ以テ斯カ

ル措置ニ出テタルモノナリト弁明セリ同社長ハ翌二十九日

(土) 有田亜細亞局長ヲ來訪会談約一時間ニ及ヒ出淵次官ニ

対スルト同様ノ趣旨ヲ述ヘ又同二十九日午後森政務次官同

社長ト會見約二時間談話ヲ交ヘタル際ニモ同様ノ趣旨ヲ社

長ヨリ述フル所アリタリ要之山本社長ハ出淵次官森政務次

官及有田局長ノ三人ニ對シ今回交渉ニ關シ其ノ手續ノ誤レ

ルコトヲ自認シ陳謝シタル次第ナリ

過般山本社長カ北京ニ於テ張作霖ノ同意ヲ取付ケ張カ「閔」

ト記シタル鐵道協定案ニ付テハ同社長ニ於テ外務省ノ手ヲ

経テ之ヲ確認スル手續ヲ執ルコトヲ希望スルヤ或ハ満鉄側

ニ於テ本案ニ尚不満ノ点アリ更ニ之カ体裁ヲ整ヘタル上右

確認ノ手續ヲ執ルコトヲ希望スル次第ニヤ將又本案ニ付テ

ハ別ニ外務省ノ手ヲ經テ確認スルノ要ナシト考ヘ居ルヤニ

会、長大請負契約成立ノ上ハ公使又ハ奉天總領事ト當該
支那官憲トノ間ニ公文交換ニ依リ確認ヲナスコト
(五) 張ト公使トノ間ニ取交ハサルヘキ文書(即チ大綱)ハ公
式ニアラサレハ危險ナリトノ説モアルヘキモ吉會長大ノ
如キハ主義ニ於テハ夙ニ公ノ文書アリ根底ニ動搖アルヘ
キ筈ナシ商租ノ如ク條約ニ正条アルモノモ出来サルモノ
ハ出来サル次第也況シヤ鐵道ハ最終的約束即チ請負契約
ノミカ合法的ナレハ可ナルニ於テヨヤ
等之理由ニ基ク次第二候

芳沢君宛訓令ハ來週早々發スルコト致度本日遠出ノ罪亡
シノ為出掛度思付之儘相認メ候

十月二十九日

有田 兄

森君ニハ昨日山条ノ話ノ大要老兄ヨリ御伝置願上候 小生
今夕帰京明早朝観艦式ニ參列之予定ニ候

出淵次官腹案 昭和二年十月二十九日

(付記二)

※ 滿蒙問題ニ關スル満鉄側交渉ニ關スル件

関シテハ出淵次官ニ対シテハ山本社長ハ外務省ノ手ヲ經テ確認スルコトヲ希望スル意味ヲ述ヘタル由ナルモ有田局長カ他方面ヨリ得タル情報ニ依レハ山本社長ノ意向必シモ然ラサルヤニ見エタルヲ以テ二十九日会談ノ際局長ヨリ社長ニ対シ此ノ点ヲ確メタル處社長ハ更ニ外務省ノ手ヲ經ルコトヲ為サス此ノ儘ニテ差支ナシト思料セラルニ於テハ其ノ様ニ取計ハルレハ自分（社長）ノ方トシテハ都合宜シト答ヘ又森政務次官ニ対シテモ出来得ルナラハ外務省ハ手ヲ出ササル様致サルコトヲ希望スル旨語リタル由ナリ

（宇佐美記）

ト答ヘ又森政務次官ニ対シテモ出来得ルナラハ外務省ハ手ヲ出ササル様致サルコトヲ希望スル旨語リタル由ナリコトヲ為サス此ノ儘ニテ差支ナシト思料セラルニ於テハ其ノ様ニ取計ハルレハ自分（社長）ノ方トシテハ都合宜シト答ヘ又森政務次官ニ対シテモ出来得ルナラハ外務省ハ手ヲ出ササル様致サルコトヲ希望スル旨語リタル由ナリ

219 昭和2年11月7日

在中國芳沢公使宛（電報）

東三省治安維持に関する交換公文案および日

中經濟提携案に関する中国側との交渉に應ぜざるようとの訓令

本省 11月7日後6時30分発

※第四九四号

往電第四九二号ニ閑シ

満鉄社長ノ提出シタル東三省治安維持ニ關スル交換公文案

北京
11月11日後発
本省
11月11日後着

第一一七七号（極秘）
（二一八文書）

貴電第四九二号ニ閑シ（滿蒙交渉ニ關スル件）同電別電書翰案中張ヨリ本使ニ宛テタル書翰案ニハ滿蒙開發ニ対スル

彼我ノ意見疏通シタル事実ヲ認メ滿蒙開發ニ關スル諸案ヲ誠意ヲ以テ協議ヲ重ねタキ意向ヲ認メタルニ本使ヨリ張ニ宛テタル答翰案ニハ鐵道問題以外ニハ一切触レサル處右ハ貴電第四九四号御來示ノ趣意ニ基キタル為カト察セラル

處貴電第四九二号ニ依レハ帝國政府ニ於テハ追テ支那側ト
經濟提携及日支共存共榮ノ為ニスル具体的諸問題協議ノ御意向ナルヤニ見受ケラルニ付テハ若シ幸ニ張ヨリ本使ニ宛テ右様ノ如キ書翰ヲ發スルコトトナル場合ニハ右本使ノ

張宛回答案モ張來翰ノ趣意ヲ其儘記載シ置ク方後日交渉ニ入ルニ便宜ナルヤニ思考セラル就テハ何分ノ御意見参考迄御回示相煩ハシタシ

編注 原文書の発電月日十一月一日あるも前後から類推して十一月十一日とした。

及日支經濟協定案ニ付支那側ヨリ何等話ヲ持掛クルカ如キコトアルトモ貴官ニ於テハ右ハ全然政府ノ閑知セサル所ナリト為シ之ニ取合ハサル様致サレ度シ

220 昭和2年11月7日 在北京江藤豊三宛（電報）

大連 11月7日後発

山本滿鉄社長より
在北京江藤豊三宛（電報）

鐵道問題の具体的案件は總て滿鉄の直接交渉に依るとの決定について

ト答ヘ又森政務次官ニ対シテモ出来得ルナラハ外務省ハ手ヲ出ササル様致サルコトヲ希望スル旨語リタル由ナリ

219

在中國芳沢公使宛（電報）

東三省治安維持に関する交換公文案および日

中經濟提携案に関する中国側との交渉に應ぜざるようとの訓令

本省 11月7日後6時30分発

※第四九四号

往電第四九二号ニ閑シ

満鉄社長ノ提出シタル東三省治安維持ニ關スル交換公文案

北京
11月11日後発
田中
11月11日後着

第一一七七号（極秘）
（二一八文書）

貴電第四九二号ニ閑シ（滿蒙交渉ニ關スル件）同電別電書翰案中張ヨリ本使ニ宛テタル書翰案ニハ滿蒙開發ニ対スル

彼我ノ意見疏通シタル事実ヲ認メ滿蒙開發ニ關スル諸案ヲ誠意ヲ以テ協議ヲ重ねタキ意向ヲ認メタルニ本使ヨリ張ニ宛テタル答翰案ニハ鐵道問題以外ニハ一切触レサル處右ハ貴電第四九四号御來示ノ趣意ニ基キタル為カト察セラル

處貴電第四九二号ニ依レハ帝國政府ニ於テハ追テ支那側ト
經濟提携及日支共存共榮ノ為ニスル具体的諸問題協議ノ御意向ナルヤニ見受ケラルニ付テハ若シ幸ニ張ヨリ本使ニ

宛テ右様ノ如キ書翰ヲ發スルコトトナル場合ニハ右本使ノ
張宛回答案モ張來翰ノ趣意ヲ其儘記載シ置ク方後日交渉ニ
入ルニ便宜ナルヤニ思考セラル就テハ何分ノ御意見参考迄
御回示相煩ハシタシ

編注 原文書の発電月日十一月一日あるも前後から類推して十一月十一日とした。

電報写

鐵道問題交渉実施方法に関する松井顧問を介しての楊宇霆の申出について

本省 11月14日後着 発

第一一九六号
〔二八文書〕
貴電第四九二号ニ閲シ

町野、松井、江藤十二日本使ヲ來訪シタルニ付御訓令ノ御趣旨ニ基キ大体打合ヲ遂ケ置キタル処十四日町野及松井本使ヲ來訪シ同日右兩人ト楊宇霆トノ会談ノ状況ヲ内報シタリ右ニ依レハ兩人ハ楊宇霆ニ対シ此際張作霖ヨリ公使ニ宛テ大体貴電第四九三号ノ趣旨ニテ書翰ヲ發セシムルコトニシタキ旨ヲ述ヘ楊ノ意向ヲ當リ見タルニ楊ハ鉄道問題ハ既ニ変則的乍ラ決定セルカ故ニ直ニ実行ニ着手スレハ宜シカラスヤ大綱ハ既ニ決定セルヲ以テ最早何人モ変更スルヲ得スト答ヘタルニ付町野等ハ日本政府ハ大元帥ヨリ右様ノ意思ヲ承知セサル限り実行ニ着手スルヲ得サルカ故ニ日本側ハ此際大元帥ヨリ右ノ如キ意思ノ表示ヲ受クルコトヲ必要トス故ニ大元帥ヨリ公使ニ対シ書面ヲ送付シテハ如何ト提議セルニ楊ハ大元帥ノ立場上直接ニ公使ト文書ヲ交換スルハ不可能ナリ

若シ文書ヲ交換セムトセハ自然外交総長ヲ経由セサルヘカラサルカ然スレハ國務會議ニ付セサルヘカラサルコトトモナリ策ノ得タルモノニアラス故ニ変則ナカラ大元帥ヨリ私

度キ意中ナリト(一)既ニ大綱ヲ決定セシニ依リ今後ハ何人モ之ヲ変更シ能ハス(二)北京テ交渉ヲ開始スレハ勢ヒ初メヨリ國務會議ノ議ニ上リ議論多クシテ実施困難ナリ然カノミナラス北京ニテハ國務會議可決セサル以上ハ大元帥ト雖モ之ヲ命令シ難ク(三)地方ナラハ今回ハ大元帥ヨリ張作相ニ嚴格ナル命令ヲ下スヲ以テ作相モ亦嚴格ナル命令ヲ下スコトトナリ從前トハ全ク異リタル状態ニ交渉ヲ進メ得ヘシ(四)万一大方ニ於ケル交渉カ無意味ニ永ヒクコトアラハ大元帥ヨリ嚴重ニ督促スヘキニ依リ心配ハ無用ナリ(五)地方ヨリ關係者ヲ北京ニ招致スルコトハ困難ニシテ且不利ナリ(六)地方ニ於テ成案ヲ得タル上初メテ國務會議ニ付シイヤオウナシニ通過セシムルニ最モ便トスルモノナリ

224 昭和2年11月16日

田中外務大臣より
在中国芳沢公使宛(電報)

張作霖より芳沢公使宛書簡案は打通、吉海両鉄道に対する芳沢公使よりの抗議の結果を付ける主旨であることおよび楊宇霆の提議に関する回訓

信ヲ以テ田中總理ニ此意思ニ基ク手紙ヲ送付シ日本側ニ於テハ夫レニ依リテ大元帥ノ意思ヲ承知スルコトシテハ如何ト申出テタル趣ニテ町野等ヨリ本使ノ意見ヲ聽ク處アリタルカ故ニ本使ハ一応請訓ノ上回答スヘキ旨申聞ケ置キタリ

右町野等ノ言フ處ニ依レハ楊宇霆ノ提議ハ張大元帥ハ主権者ナルカ故外國公使ト書面ノ往復ヲ為スコトハ之ヲ避ケ政府ト外國公使トノ間ニ往復ヲ為サシメムトスルモノニテ右ハ我方ト立場ヲ異ニスルニ依リ生スル思想ノ差異ニ基クモノニテ致方ナキ處ナリ而シテ閣下ト張大元帥間ノ書翰ノ交換トスルモ問題解決上ノ實際的見地ヨリスレハ強チ差支ナキヤニ思考セラルモ御訓令ノ明文トハ大分相違セルニ付果シテ差支ナキヤ何分ノ御意見至急御回電ヲ請フ

(付記)

昭和二年十一月十四日

北京公所長発山本満鉄社長宛電報写(暗)
鉄道問題交渉実施方法ニ付楊宇霆カ松井顧問ヲ介シテ申出テタル諸点左ノ通ニシテ此際新ニ中央ニ於ケル交渉ヲ避ケ

第五一〇号
〔二三三文書〕
貴電第一一九六号ニ閲シ

鉄道建設問題ニツキテハ往電第四九二号ヲ以テ申進シタル通リ政府トシテハ之レニ手ヲ触レス滿鉄社長ヲシテ張トノ諒解ニ基キ引続キ請負契約締結ニ努力セシムル積ニテ此際張ヲシテ貴官ニ宛テ書面ヲ發セシムトシタルハ打通吉海線ニ付スル貴官ヨリノ抗議ノ結果ヲ付ケムトノ主旨ニ外ナラス然ルニ貴電第一一九六号ニ依レハ町野等ハ日本政府ハ大元帥ヨリ書翰ヲ送ラサル限り鉄道問題ノ實行ニ着手スルヲ得スト述ヘタル趣ニテ右ハ當方ノ意向ヲ誤解シ居ルモノト認メラルニ付然ルヘク御注意置アリタシ

次ニ張ヨリ貴官へ送付セシムル書面ノ件ニツキテハ張力主權者ナリヤ否ヤハ別問題トシ過去ニ於テモ公使カ直接元首ト交渉シタルハ其ノ例ニ乏シカラス現ニ張ニ対シテモ塩政干渉問題等ニテ關係公使カ直接交渉シタル例有ルハ御承知ノ通ナルノミナラス楊宇霆ノ提議ノ如ク張ヨリ本大臣ニ私信ヲ送リ得ルモノナラハ貴官ニ対シテ書信ヲ送リ得サル理由モ無カルヘク又鉄道問題ニ付テハ貴官ヨリ楊ニ対シ既ニ口ヲ切リアリタルニ拘ハラス支那側ニ於テ貴官ニ何等ノ挨

摺ヲモ為サスシテ山本社長トノ間ニ大綱ヲ取極メ其ノ儘ト
ナリ居ル次第ナレハ此際貴官ニ対シ何等カノ形式ヲ以テ結
末ヲ付クルコト支那側トシテモ当然ノコトナルニ付此等ノ
諸点ヲ充分説明セシムルニ於テハ先方モ本件書翰ノ送付ヲ
拒絶スルコト難カルヘシト思考ス右ノ主旨ニヨリ然ルヘク
町野等ヲ指導セラルル様致度

奉天ニ転電アリタシ

225 昭和2年11月22日 在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛（電報）

松井七夫、町野武馬の説得にもかかわらず張
作霖、楊宇霆は芳沢公使宛書簡案に同意せざ
る旨報告について

北京 11月22日後発
本省 11月22日後着

第一二三一號（極秘）
〔一二四文書〕
貴電第五一〇号ニ関シ

早速松井、町野（楊宇霆トノ交渉ハ松井ノ方最適任ニテ張
作霖トノ交渉ハ町野若ハ江藤ノ方可ナル故ニ楊トノ交渉ノ
必要上町野ハ常ニ松井ヲ同行シ来レリ）ニ御来示ノ趣旨ニ

基キ可然説示シ置キタル處二十一日兩人來訪ノ上兩人ヨリ
張作霖及楊宇霆ニ種々説得ヲ試ミタルモ張ハ山本社長カ田
中總理ノ命ニ依リ交渉ヲ遂ケ其ノ結果協定成立シタル以上
今更公使ニ宛テ書面ヲ送ル等トハ了解シ難キ處ナリト主張
シ又楊宇霆ハ日本ノ代表者トシテ北京ニ在ル公使ニ書面ヲ
送ルコトトセハ如何ニシテモ正当機関タル外交部ヲ經由セ
サルヘカラスト主張シ張、楊共自説ヲ固執シテ頑トシテ両
人ノ説得ニ服セサル旨報告アリタルニ付本使ハ兩人ニ対シ
鐵道問題ニ付テハ本使ヨリ楊ニ対シ交渉中ナルニ拘ラス支
那側ニ於テ本使ニ何等ノ挨拶ナク山本トノ間ニ協議ヲ遂ケ
タル次第ナルカ故ニ此ノ際何等カノ形式ヲ以テ本使トノ交
渉ノ結末ヲ着クルコト當然ノコトナルニ付今一応此ノ点ヲ
愚痴ヲ零シタル上立チ去リタル故松井ヨリ本使ノ説示ニ從
ヒ楊ノ説得ヲ試ミタル處楊ハ本使トノ交渉ハ第二回会見ノ
末段ニ於テ芳沢公使ハ日本政府ノ訓令ニ基キ交渉ヲ打切り
ニサレ即チ結末カ着キタル次第ナルカ故其ノ以後ハ支那側
江藤ヨリ滿鉄社長宛電報ニ依レハ張作霖ヨリ貴官ニ宛テ書
面ヲ発スルコトハ町野江藤兩人ニ於テ無理ニ押付ケ一旦承
諾セシメタルニ拘ラス其ノ後張楊相談ノ結果其決心ヲ翻ス
ニ至レルモノノ由ニテ而カモ支那側カ貴官宛ニ書面ヲ送リ
得ストノ理由ハ一々弁駁スル迄モ無ク理由極メテ薄弱ナリ
支那側カ如此執拗ニ其主張ヲ固執スル原因ノ何レニ在ルヤ
ハ諒解ニ苦ムトコロナルモ或ハ我方ノ事情ヲ諒解セシス或種
ノ誤解ヲ抱キ居ルカ為メニアラスヤト推測セラルニツキ
更ニ本庄ヲシテ張作霖若ハ楊宇霆ニ我方事情ヲ伝ヘシムル
コトト致度ニ付貴官ハ本庄ニ旨ヲ含メテ支那側説得ニ力メ
シムル様致シタシ尚ホ累次ノ電報ニテ申進メ有ル通り政府
トシテハ滿州五鐵道建設ニ關スル滿鉄社長ノ取極ヲ認メ請
負契約締結等ハドシドシ進行セシメ差支無キ意向ニテ今次

二於テ何人ヲ對手スルモ差支ナシト心得居レリト述ヘタ
ルニ付松井ハ右ハ打切ニアラスシテ中止ナリト反駁シタル
モ楊ハ自分ハ打切ト解釈シ居レリト答ヘ水掛論ニ終リタル
ニ付松井ヨリ更ニ種々説得ヲ試ミタルモ楊ハ田中總理ハ東
京ニ居ラルルカ故ニ同總理ニ私信ヲ送ルコトナラハ事態差
支ナキモ北京ニ駐劄ノ日本公使ニ書面ヲ送ルカ如キハ正当
機關ノ存在ヲ無視スルモノニテ不可能ノコトナリトノ一点
張ニテ議論落着セス結局楊ヨリ然ラハ田中總理宛私信ヲ公
使ニ送リ公使ヨリ之カ転送ヲ請フコトトシ度ク右ニテ我慢
シ與レト述ヘタル旨報告シテ本使ノ指図ヲ求メタリ楊等ノ
態度ハ甚ダ不満足ニテ予テノ御訓電ノ趣旨ニ副ハサルコト
勿論ナルモ松井、町野モ支那側ノ態度ニハ頗ル閉口シ居レ
ルニ付兎ニ角御意見ヲ伺フコトトシタリ就テハ何分ノ儀御
訓電ヲ請フ

226 昭和2年11月26日 田中外務大臣より
在中国芳沢公使宛（電報）

張作霖の芳沢公使宛書簡發出につき本庄繁武

官をして説得方訓令
付 記 十一月二十六日付參謀本部より本庄中將宛電報

通吉海両線ニ対スル貴官ヨリノ抗議ノ後始末ヲ為シ置カム
トスル主旨ナルニ付右ノ点ハ誤解無キ様特ニ本庄ニモ御注
意置アリタシ

(付記)

※参謀本部ヨリ本庄中将宛電報案

(欄外記入一)

今次ノ満蒙交渉中鉄道建設問題ニツキテハ政府ハ山本社長
ト張作霖トノ協定ヲ認メ之レニ基キ満鉄ヲシテドシドシ請

(欄外記入二) 負契約ヲ締結セシムル方針ナルモ芳沢公使ヨリ打通吉海ニ

(ツキ嚴重ナル抗議ヲ提出シ居レル関係モアリ又鉄道問題ニ

(ツキテハ当初芳沢公使ヨリ張作霖及楊宇霆ニ開談シタルニ

(拘ラス支那側ニ於テハ其後山本社長ト協定ヲ遂ケ芳沢公使

(ニハ一言ノ挨拶モ為シ居ラサル行掛モ有リ旁々此際是非張

(作霖ヨリ芳沢公使ニ宛テ書面ヲ出サシメ此等ノ関係ニ結果

(ヲ付ケ置度考ニテ關係方面熟議ノ結果張作霖側ニ於テモ応

(諾ニ難カラサル文面ヲ案出シ過般芳沢公使ニ訓令シ町野江

(藤ラシテ支那側ノ説得ニカメシメタル次第ナルモ張楊等ニ

(於テハ種々マラヌ理屈ヲコネテ之レニ応セサルハ御承知

(ノ通ナリ從來支那側ニ於テハ外務ト外務以外トノ間ニ連絡

ヲ欠キ若ハ態度ノ不一致アルカ如ク誤解セル向キ有リシモ
田中總理外相ヲ兼任セシ以来ハ特ニ右様ノコトハ絶対ニ之
無キ次第ナルカ張作霖等ニ於テハ或ハ右様ノ誤解ヲ今尚ホ
把持シ居ル結果現在ノ如キ不可解ノ態度ヲ執リ居ルモノカ
ト察セラルニ付貴官ハ芳沢公使ト打合セラレ至急張作霖
若ハ楊宇霆ニ面会シ上述ノ次第並ニ右書面ニテ抗議等一切
之レヲ打切ル主旨ナルコトヲ述へ且ツ支那側トシテハ此際
申添エラレ先方説得ニ力メラレタシ

(欄外記入一)

二十六日總理官邸ニ於テ亞細亞局長ヨリ大臣ニ説明セリ

大臣承知

(欄外記入二) 別紙通り參謀本部ヨリ本庄中將宛電訓セシメ度總理ノ命ナリ

可然御取計相成度

二年十一月二十六日

有田局長

松井第二部長殿

編注 本文書は日付を欠くも欄外記入より十一月二十六日付
とした。

227 昭和2年11月30日 在中国芳沢公使より

田中外務大臣宛(電報)

芳沢公使宛書簡案に関する本庄武官と楊宇霆
および張作霖との会談報告について北京 11月30日後発
本省 12月1日前着

第一二五四号

(三三六文書)

貴電第五二九号ニ關シ

本庄ニ委曲御訓示ノ御趣旨ヲ申伝ヘ置キタル処本庄ハ二十
九日町野ト同道シテ楊宇霆ヲ訪問シ先ツ楊ニ對シ町野松井
等ト張、楊トノ會議ハ詳細日本政府ニ伝ヘタルカ政府ニ於
テハ充分其意向徹底セサルモノアルヤモ測ラレストテ自分

(本庄)ニ更ニ一応説述方要求アリタリト前置シテ鉄道問
題ニ付テハ本使ト張、楊トノ間ニ交渉ヲ開始シタル關係モ

アリ其後始末ヲ付ケル為ニ張ヨリ公使ニ対シ書翰ヲ發スル
コトハ當然ノ次第ナラスヤト言ヒシニ楊ハ満蒙鉄道問題ニ
關スル本使トノ交渉ハ未タ具体的問題ニ入ラサル時ニ山本
社長ハ田中總理ノ代理トシテ來リ鉄道ノ大綱ヲ纏メタル次

第ニテ日本側ハ總テ内部ニ於テ充分ナル諒解ノ上山本社長
カ公使ヨリ引繼キテ日本政府ノ代表トシテ代リテ交渉シタ
ルモノト思ヒシニ付山本協定ニテ鳩カ付キタル訳ナリト答

ヘタルヲ以テ本庄ハ海吉打通線ノ問題ハ條約上ノ権利侵害
ニシテ日本政府ヨリハ屢々嚴重ナル抗議ヲ為シ最重キヲ置
クモノナルカ支那側ノ立場ヲモ篤ト考量シ今後紛糾ヲ避け
ムカ為公使ニ対スル張ノ書翰ヲ以テ後始末ヲ付ケムトスル
心算ナリト述ヘタルニ対シ楊ハ山本ト協定ノ際山本ハ新鉄
道ノ協定成ラハ海吉、打通ニ対スル後始末ハ付クヘシト言
明シ実ハ日本側ニ於テ海吉、打通ニ対スル抗議ヲ放棄シタ
ルカ故ニ其協定ハ出来タリシナリト忘酬シ

本庄ハ山本カ總理ノ意思ヲ受ケタリヤ否ヤハ知ラサレトモ
日本政府ノ正式ノ代表者ニアラス政府ノ代表ハ公使ナルカ
故ニ國際上ノ手続ハ正式トシテハ公使ヲ經由セサルヘカラ
ス殊ニ山本、張協定ノ末条ニ於テハ兩國政府代表ノ調印ヲ
予期スルカ今調印ノ代リニ書翰ヲ交換スル訳ナリト述ヘタ
ク若シ山本カ總理ノ正式代表ニアラストセハ協定ヲ結フ筈
ルニ楊ハ山本ハ兎ニ角田中總理ノ意思ヲ受ケ總理ノ代表ト
シテ交渉シタル故總理ノ代表ニ公式非公式ノ區別アル筈ナ
ク以テスル場合アリ山本協約ノ末条ニ兩國政府ノ代表者カ
調印ストアルハ必シモ重大ナル意義アルモノニアラス山

本ハ右規定ノ精神ヲ取リタルノミニテ文字ニ重キヲ置カサリシナリ自分（楊）ハ山本協定ハ草案ナレハ之ニ基テ詳細具体的ノ協定ヲ作り右新協定ニ両国代表カ調印スルモノナリト思ヘリ今書翰ヲ交換スルハ一旦協定セシモノヲ取返スニ公使ト協定ヲ作り直スコトナラハ何等差支ナク又張ヨリ田中總理ニ書翰ヲ出スハ總理ノ代表トノ談合ヲ確認スル意味ナルカ其書翰ノ伝達ヲ公使ニ依頼スルコトハ差支ナシト答ヘタリ

此時町野ハ政府トハ相談シタル次第ニアラサレト私案トシテハ例ヘハ張ヨリ公使宛ノ書翰ヲ以テ總理ヘノ伝言ヲ依頼スルコトシテハ如何ト問ヒシニ楊ハ右ハ支那ノ公文ノ形式ニ合セサルニ付応シ難キモ總理宛ヲ一步譲リテ田中外務大臣ト為シ其書翰ノ伝達ヲ公使ニ依頼スルコトハ承認シ得ヘシト答ヘ尚楊ハ支那側ニモ種々内部ニ面倒ナル問題アルカ此等ヲ適當ニ纏メ得ル良案サヘアラハ日本ヲ満足セシメ得ヘキコトニモナリ得ヘク自分モ尚研究スヘキカ免ニ角直接張作霖ニ話アリタシト語リタル由ナリ三十日本庄張作霖ヲ訪問シ会談ヲ遂ケタルカ張ハ予メ楊宇霆ト打合アリタル

228 昭和2年11月30日 在北京本庄公使館付武官より
支第七一〇号電報ノ通リ昨二十九日町野帶同楊宇霆ニ張作

霖の強硬な反対態度について
芳沢公使宛書簡案に関する楊宇霆および張作

11月30日後発
12月1日後着
(12月1日外務省接受)

※
支第七一一号
芳沢公使宛書簡案に関する楊宇霆および張作

ヲ宣伝ニ利用シタル如クニモ思ハル為ニ南方ハ統々予ヲ攻撃シ來リ殊ニ甚タシキハ日本新聞ニ予カ滿州ヲ日本ニ提供シ其援助ニ依リ武憲皇帝ト為ラントスルモノナリト途中傷シアリ斯ノ如キハ余リ予ヲ自滅ニ導クモノナリト憤慨シ小官ハ右ノ如キハ單ニ新聞ノ捏造的ノモノナリ楊ノ昨日ノ声明ハ楊自ラノ口ヨリ出テタル田中内閣攻撃ナリ此際例ノ公使宛公文書サヘ発送シ得ストセハ過般ノ排日問題ノ繰返トナリ日支ノ関係愈々悪化スルニ至ラント語リシニ対シ張ハ山本ト予ト交渉セル其内容ヲ公使カ知ラサル筈ナシ然ルニ再ヒ公使カ公文書ヲ送レト云フカ如キハ日本ノ真意ヲ解シ難シ強テ公使ニ公文ヲ要スルナラハ公使ハ我外交總長ニ交渉セラレタシトテ遂ニ半ハ喧嘩別レトナレリ

彼ハ別レニ臨ミ予ハ裏面的ニ又極秘的運動ニテ日本ノ利益ヲモ計リタシシテ為セシコトカ悉ク日本新聞ニ漏レ夫レヲ中外ニ伝播セラレ而カモ日本ハ何等取締ヲ為ササルカ如キ現状ニ於テハ最早日本トハ何事モ語ル能ハサルニ非サルカト自語シ居タリ

情況斯ノ如キニ於テハ日本トシテ多少讓歩スルモ実行ヲ主トスルカ又ハ米國ニ於テ満鉄社債モ或ハ不成立ノ場合ヲモ

モノノ如ク其言分ハ大体楊宇霆ト同一ナルカ其際張ハ前述ノ趣旨ヲ繰返シ世間ニ於テハ自分（張）カ日本ノ傀儡トナリテ東三省ヲ日本ノ植民地ト為ストノ風説アルコト田中内閣ニ於テ今回ノ交渉ヲ宣伝ニ用ヒ居ルコト山本ハ約束ニ反シ交渉ノ内容ヲ吹聴シ居ルコト等ニ付其苦境ヲ訴ヘテ苦情ヲ述ヘタル後此際公使トノ間ニ手紙ヲ交換スレハ益々世間ニ誤解ヲ伝ヘ反対宣伝ノ材料トナルヘシト述ヘ最後ニ公使ハ予メ自分（張）ト山本トノ交渉ヲ知ラサル筈ナキガ故ニ今更手紙ヲ交換スルコトハ同シコトヲ繰返スコトナリ其意味諒解ニ苦シミ公使ニ於テ飽迄書翰ヲ要求セムトセハ外交部ヲ經由スル外ナシト言明シタル由ナリ

四 山本・張鉄道交渉

リ楊モ英米記者ノ質問ニ答ヘタルモノナラン又山本トノ交渉ハ同氏帰国以来大部分新聞ニ掲載セラレ日本政府ハ此事

考へ此際断然積極手段ヲ執ルカ何レカ其一ヲ選ハサルへカラサルト思フ

目下ノ実情ヲ観ル為至急連絡旁々松井部長ヲ差遣サレテハ如何委細ハ次電ニ譲ル

~~~~~

229 昭和2年12月2日

田中外務大臣より  
在中国芳沢公使宛（電報）

張作霖との書簡交換遅滞なく取計らい方訓令

本省 12月2日後発

※ 第五三九号

貴電第一二五四号及第一二七〇号ニ閔シ支那側ノ態度ハ頗

ル不満足ナルモ本件ニツキ此上押問答ヲ重ヌルモ無益ト思

ハルニ依リ貴官ハ遲滞無ク左ノ通り御取計有リ度シ

一、張ヲシテ往電第四九三号ノ主旨ニ依リ外務大臣宛ノ書

翰（貴電第一二五四号ニ依レハ楊宇霆ハ町野ノ私案ニ対

シテ總理宛ヲ一步譲リテ田中外務大臣ト為シ云々ト有

リ）ヲ認メシメ開キ封ノ儘ニテ本大臣ニ転送方ヲ貴官ニ

依頼セシムルコト

一、右ニ對シ貴官ヨリハ折返シ張ニ宛テ本大臣ノ命ニ依ル趣ヲ以テ往電第四九三号ノ主旨ニ依リ回答スルコト

翰（貴電第一二五四号ニ依レハ楊宇霆ハ町野ノ私案ニ対

シテ總理宛ヲ一步譲リテ田中外務大臣ト為シ云々ト有

リ）ヲ認メシメ開キ封ノ儘ニテ本大臣ニ転送方ヲ貴官ニ

依頼セシムルコト

一、右ニ對シ貴官ヨリハ折返シ張ニ宛テ本大臣ノ命ニ依ル趣ヲ以テ往電第四九三号ノ主旨ニ依リ回答スルコト

ル

此際形式ニ拘泥スルコトナク公文發送方再応考慮ヲ促シタルニ彼ハ趣旨ニ於テハ全ク同意ナルモ何分屢々繰返シタル

カ如ク困難ナル事情アリ何カ他ニ適當ナル弁法無キヤトテ

一例トシテ田中總理ヨリ滿蒙鐵道問題等ハ其代表タル山本

社長カ張作霖トノ間ニ締結シ來レル協定通リナリヤ取タダ

シ方外務省ニ命シ該省ハ之ヲ芳沢公使ニ移シタルコトトシ

テ同公使ヨリ公文ヲ張作霖ニ發シ張ヨリ相違ナキ旨回答ス

ル形式トシテハ如何ト語リタリ然ルニ同夜遲ク陸三九一号

大臣訓電ニ接シ右楊ノ意見ハ張作霖ヨリ外相宛公文發送案

ヨリモ不完全ナルヤノ嫌モアリ顧問等トモ種々研究中本三

日外務大臣ヨリ芳沢公使ニ對シ張ヨリ自發のニ外相宛公文

ヲ開封ノママ公使経由發送スル案ニテ速カニ取纏ムヘント

ノ訓電到来シタル為關係者一同公使ノ許ニ会合シ直チニ該

訓電通り實行セシムルコトニ決シ夫々尽力スルコトトナレ

リ

~~~~~

231 昭和2年12月4日 在北京本庄公使館付武官より

南參謀次長宛（電報）

張作霖の田中外相宛書簡および楊の米國記者

右書面ノ往復ヲ完了シタル上ハ往電第^二四九二号ノ主旨ニ依リ引続キ他ノ案件ニツキ交渉ヲ遂ケラレ度尚貴電第一二六〇号ニ閔シ楊宇霆ノ外國記者會見談ノ件ハ甚タ不都合ナル仕打ニシテ此点ニ閔シ不取敢貴官ノ執ラレタル措置タケニ止メニシテ更ニ充分同人ノ責任ヲ問フコト必要ナリト認ムルモ諸般ノ關係上右ニツキテハ自ラ別ニ其ノ機会有リト存スル点モアリ旁此際ハ今日迄貴官ノ執ラレタル措置タケニ止メ他方滿鐵ヲシテ至急請負契約ヲ締結スル様取運ハシムルコトト致シタシ

230 昭和2年12月3日 在北京本庄公使館付武官より

南參謀次長宛（電報）

張作霖の田中外相宛書簡は芳沢公使經由にて

発送について

翰（貴電第一二五四号ニ依レハ楊宇霆ハ町野ノ私案ニ対

シテ總理宛ヲ一步譲リテ田中外務大臣ト為シ云々ト有

リ）ヲ認メシメ開キ封ノ儘ニテ本大臣ニ転送方ヲ貴官ニ

依頼セシムルコト

一、右ニ對シ貴官ヨリハ折返シ張ニ宛テ本大臣ノ命ニ依ル趣ヲ以テ往電第四九三号ノ主旨ニ依リ回答スルコト

翰（貴電第一二五四号ニ依レハ楊宇霆ハ町野ノ私案ニ対

シテ總理宛ヲ一步譲リテ田中外務大臣ト為シ云々ト有

リ）ヲ認メシメ開キ封ノ儘ニテ本大臣ニ転送方ヲ貴官ニ

依頼セシムルコト

一、右ニ對シ貴官ヨリハ折返シ張ニ宛テ本大臣ノ命ニ依ル趣ヲ以テ往電第四九三号ノ主旨ニ依リ回答スルコト

ル

此際形式ニ拘泥スルコトナク公文發送方再応考慮ヲ促シタルニ彼ハ趣旨ニ於テハ全ク同意ナルモ何分屢々繰返シタル

カ如ク困難ナル事情アリ何カ他ニ適當ナル弁法無キヤトテ

一例トシテ田中總理ヨリ滿蒙鐵道問題等ハ其代表タル山本

社長カ張作霖トノ間ニ締結シ來レル協定通リナリヤ取タダ

シ方外務省ニ命シ該省ハ之ヲ芳沢公使ニ移シタルコトトシ

テ同公使ヨリ公文ヲ張作霖ニ發シ張ヨリ相違ナキ旨回答ス

ル形式トシテハ如何ト語リタリ然ルニ同夜遲ク陸三九一号

大臣訓電ニ接シ右楊ノ意見ハ張作霖ヨリ外相宛公文發送案

ヨリモ不完全ナルヤノ嫌モアリ顧問等トモ種々研究中本三

日外務大臣ヨリ芳沢公使ニ對シ張ヨリ自發のニ外相宛公文

ヲ開封ノママ公使経由發送スル案ニテ速カニ取纏ムヘント

ノ訓電到来シタル為關係者一同公使ノ許ニ会合シ直チニ該

訓電通り實行セシムルコトニ決シ夫々尽力スルコトトナレ

リ

~~~~~

232 昭和2年12月5日 在中国芳沢公使より

田中外務大臣宛（電報）

田中外相宛張作霖書簡受領について

別電一 十二月五日付在中国芳沢公使より田中外務大

臣宛電報第一二八八号

臣宛電報第一二八九号

田中外務大臣宛張作霖書簡転送方について

(別封) 田中外務大臣宛張作霖書簡転送方について  
十二月五日付在中国芳沢公使より田中外務大  
臣宛電報第一二八九号

北京 12月5日後発 本省 12月5日後着

往電第一二七九号ニ関シ

十二月五日松井、町野來訪ノ上張作霖楊宇霆トモニ外務大臣宛ノ書面ヲ送リ越ス事ヲ承諾シタル旨ヲ語リタルニ付本使ヨリ早速予テノ御訓示ニ從ヒ張ニ面会ヲ申入レタル處張ハ少シク健康ヲ害ヒタル趣ニテ(楊宇霆カ本使本庄中将ニ語ル處ニ依レハ過般ノ新聞事件以来津浦線方面戦況ノ不利モ手伝ヒタル為メ張ハ甚タシク不機嫌ニテ何人ニ對シテモ会談要領ヲ得ス此ノ際本使カ面会スルハ考ヘモノナラントノ事ナリ)承諾ノ回答ニ接セサル際五日夕刻外務大臣宛書面及右書面ノ転達方ヲ依頼セル本使宛書面ヲ携帶シテ陳慶雲來訪シタルニ付本使ハ貴電第四九三号ニ比較シテ閲読シ

(<sup>一二八文書</sup>十二月五日後着)

(別電一)

北京 12月5日後発 本省 12月5日後着

十二月五日 張作霖啓

(訳文)

第一二八八号  
過般山本社長來京ノ際御談アリタルコトハ近ク誠意ヲ以テ商議スヘキ希望ナルニ付各該案詳細ナル規定ニ対シテハ現ニ各該地長官ヲシテ近ク議定セシムヘキ考ニ有之尚彼此共同利益ニ基キ和衷商議シ睦誼ヲ厚ク致シタシ

拝啓陳者過般山本社長來京ノ節御話アリタル事ハ誠意ヲ以テ御協議スルコトヲ深ク希望致候ニ付該各件案ノ詳細ナル規定ニ対シテハ現ニ各該地方官ニ命シ項ヲ逐テ議定セシムヘキ考ニ有之右ハ從来通り彼此ノ共同利益ニ基キ和衷商議セシメ睦誼ヲ敦フシ度奉存候右得貴意候 敬具

十二月五日

張作霖

第一二八九号

別封田中外務大臣宛書面転送方御取計相煩ハシタシ

(別封)

(昭和二年十二月五日付田中外務大臣宛張作霖來翰)

について

233 昭和2年12月6日 在北京本庄公使館付武官より

南參謀次長宛(電報)  
芳沢公使経由の田中外相宛張作霖書簡の文意

12月6日後着  
12月7日後着

田中外務大臣閣下敬啓者日前山本社長來京所談之事敝意深

願以誠意商榷對於各該案詳細規定現擬飭由各該地方官逐項議訂仍令本彼此共同利益和衷商弁以敦睦誼專此敬頌  
勵祺

<sup>支</sup>第七二五号

(12月7日外務省接受)

タル處御來示ノ文句トハ異ナル点アルモ此ノ上松井町野ヲ  
経テ交渉スルモ之以上ノ事ハ到底困難ト認メ之ヲ受領シ置

キタリ右二通書面ノ訳文別電一二八八号及別電第一二八九  
号ノ通ナリ

貴電第四九三号張來翰ノ趣旨ハ松井ニ於テ要訳ノ上町野ヨ

リ張作霖ニ手交シ右趣旨發送ノ事ニ諒解ヲ遂ケタルモ別電

張來翰ハ貴電ノ分ト相違セルニ付松井ニ尋ネタル處松井ニ

於テハ之ヲ不審トシ明日其ノ事情ヲ聞キ質スヘキモ既ニ大

元帥ニ於テ書面ヲ發送シタル今日之ヲ修正セシムル事ハ到

底不可能ナラントノ意見ナリ尚貴電第四九二号ニ依レハ右

書面ヲ送リ越斯事ニ諒解付キタル上ハ本使ハ直ニ張作霖ニ

面会シテ書面ノ提出ヲ正式ニ要求スル事トナリ居ル處張ヨ

リノ書面ハ本使ノ訪問前既ニ本使ニ交付セラレタル次第ニ

テ右ハ交渉ノ際多少ノ行違ヒアリシニ基クモノト思ハルモ

此ノ際此等ノ点ヲ指摘スル程ノ必要モ無カルヘキニ付此ノ

書面ヲ送リ越斯事ニ諒解付キタル上ハ本使ハ直ニ張作霖ニ

面会シテ書面ノ提出ヲ正式ニ要求スル事トナリ居ル處張ヨ

キ張作霖ノ文書ハ昨五日公使ノ許ニ到着セリ文意ハ公使報告ニ詳ナル通リ田中外相宛「山本社長來燕ノ際ノオ話ノコトハ誠意商議ヲ希望ス諸案件ノ詳細規定ニ就テハ地方長官ヲシテ議定セシムル積リナリ双方ノ利益ニ基キ和衷商弁彼我ノ親睦ヲ厚ウシタシ」ト云フニ在リ公使ハ当初内相談ノモノニ比シ不充分ナリトセラレツツアリシモ不日楊ノ松井顧問ニ説明スルトコロニ依レハ彼レカ内相談ノ文案ノ冒頭ニ在ル「滿蒙開発ニ関スル田中總理ノ意見ヲ拝誦シ意思ノ疏通ヲ見タリ」云々トノ挨拶ハ已ニ山本社長ニ托シ總理私案タル書翰ニ記シアルカ故ニ又最後ノ「滿蒙開発ニ關スル諸案モ誠意協議ヲ重ネタシ」云々ノ意味ハ當時山本社長トノ間ニ暫ク該諸案ヲ見合スコットナリシ次第故ニ共ニ省略スルコトシタルモノニテ張作霖ト山本社長トノ間ノ鉄道ニ関スル協約モ其書類ニハ之ヲ明カニシアリテ趣旨ニ於テ何等ノ差ナク要スルニ内相談ノモノヲ簡単ニシタルマテナリト之ニ対シ公使ハ我政府ニテ承認スル限り自分ニハ異存ナシトノコトナリ又楊ノ英米記者ニ対スル失言問題ニ就テモ外相ヨリ公使宛訓電ノ次第モアリ公使ハ支第七二二号電ノ如ク楊ヨリ公使宛文書ヲ以テ証明セルヲ機会トシ不満足

在奉天總領事へ転電アリタシ

235 昭和2年12月10日 在中國芳沢公使より

田中外務大臣宛（電報）

張作霖宛回答書簡の交付および日中經濟提携、鐵道問題等に関する張作霖との会談について

北京 12月10日後發  
本省 12月11日前着

第一三一三号（極秘）  
往電第一二九六号三閑シ

九日張作霖ヨリ會見ヲ承諾シ來リタル為早速往訪シタルニ張ハ元氣ニ見エタルカ故先ツ健康恢復ニ対シ祝意ヲ表シタル處張ハ淡泊ニ山東ノ形勢面白カラサリシ為引籠リタルカ最早元氣恢復セリト述ヘタルニ付本使ハ山東方面形勢ノ有利ナル展開ヲ祝シタルニ張ハ要領別電第一三一四号ノ如ク徐州ニ於ケル戰爭ノ状況ニ付縷々説述シタリ次テ本使ハ用意シ置キタル本使ヨリノ回答（貴電第五四九号ノ書翰案ヲ日漢兩文ニ認ム）ヲ交付シタル處張ハ一読シタル上別段異存ランキ様子モ無ク之ヲ受領シタリ依テ本使

キ張作霖ノ文書ハ昨五日公使ノ許ニ到着セリ文意ハ公使報告ニ詳ナル通リ田中外相宛「山本社長來燕ノ際ノオ話ノコトハ誠意商議ヲ希望ス諸案件ノ詳細規定ニ就テハ地方長官ヲシテ議定セシムル積リナリ双方ノ利益ニ基キ和衷商弁彼我ノ親睦ヲ厚ウシタシ」ト云フニ在リ公使ハ当初内相談ノモノニ比シ不充分ナリトセラレツツアリシモ不日楊ノ松井顧問ニ説明スルトコロニ依レハ彼レカ内相談ノ文案ノ冒頭ニ在ル「滿蒙開発ニ關スル田中總理ノ意見ヲ拝誦シ意思ノ疏通ヲ見タリ」云々トノ挨拶ハ已ニ山本社長ニ托シ總理私案タル書翰ニ記シアルカ故ニ又最後ノ「滿蒙開発ニ關スル諸案モ誠意協議ヲ重ネタシ」云々ノ意味ハ當時山本社長トノ間ニ暫ク該諸案ヲ見合スコットナリシ次第故ニ共ニ省略スルコトシタルモノニテ張作霖ト山本社長トノ間ノ鉄道ニ関スル協約モ其書類ニハ之ヲ明カニシアリテ趣旨ニ於テ何等ノ差ナク要スルニ内相談ノモノヲ簡単ニシタルマテナリト之ニ対シ公使ハ我政府ニテ承認スル限り自分ニハ異存ナシトノコトナリ又楊ノ英米記者ニ対スル失言問題ニ就テモ外相ヨリ公使宛訓電ノ次第モアリ公使ハ支第七二二号電ノ如ク楊ヨリ公使宛文書ヲ以テ証明セルヲ機会トシ不満足

ナカラ新聞訂正ニ對スル要求ヲ打切ルモノトセラレタリ  
貴電第一二八七号ニ閑シ  
〔二三文書〕  
「各該案」中ニハ彼ノ日支經濟協定及東三省治安維持ノ問題ヲモ包含スルモノト解釈セラル虞アルニ顧ミ此ノ上ハ貴官ヨリ發セラル回答ニ於テ當方ノ立場ヲ明カニシ置クヨリ外ナシト認ムニ付貴官回答ハ左ノ通りトセラレ度シ

拝啓陳者 月 日付貴翰内容早速田中外務大臣ニ轉達致候處鐵道問題ニ關シ閣下ト山本社長トノ間ニ成立シタル協議ヲ基礎トシテ万事円満解決ヲ期セラルニ於テハ異議無之旨閣下ニ回答スル様同大臣ヨリ電訓ニ接シ候ニ付右様御承知相成度此段回答得貴意候  
敬具

234 昭和2年12月7日 在中國芳沢公使宛（電報）  
芳沢公使より張作霖宛回答書簡案について  
※第五四九号  
〔二三文書〕  
貴電第一二八八号張來翰ハ此ノ儘受領シ置カレ差支無キモ  
「各該案」中ニハ彼ノ日支經濟協定及東三省治安維持ノ問題ヲモ包含スルモノト解釈セラル虞アルニ顧ミ此ノ上ハ貴官ヨリ發セラル回答ニ於テ當方ノ立場ヲ明カニシ置クヨリ外ナシト認ムニ付貴官回答ハ左ノ通りトセラレ度シ

ハ貴電第四九二号御訓示ノ通帝國政府ノ趣旨ハ日支提携シテ滿蒙ノ經濟的發展ヲ遂ケムトスルニ在ルカ故ニ張ニ於テモ之ヲ諒解シ誠意此趣旨ノ遂行ヲ計ルニ於テハ帝國政府ニ於テモ特ニ好意アル態度ヲ維持シ正当ナル支持ヲ答マサルヘキ旨ノ趣旨ヲ敷衍説明シタル処張ハ自分ハ善ク之ヲ諒解シ居レリ日支ノ提携ハ結構ナルカ自分ハ日本以外ノ外國ノ事業ヲ滿州ニ誘致スル事ヲ好マス然ルニ日本側ニ於テ例ヘハ新聞紙上等ニテ頻リニ書キ立テラル場合ニハ自分トシテハ非常ナル苦境ニ陥ル次第ニシテ既ニ日本カ米国ヲ誘ツテ滿蒙開發ニ投資セムトストノ報道カ日本新聞紙ニ依リ吹聴セラレタル為英米記者等ハ自分ヲ來訪シテ日本カ米国ノ資金ヲ以テ滿州ヲ開發スルカ如キ事アリトセハ大元帥ノ感想果シテ如何ト質シタルニ付自分ハ非常ニ当惑シタリ仮ニ貴公使カ自分ノ立場ニ立タレスノ如キ質問ニ接セラルル場合果シテ如何ナル感想ヲ起サルルヤ自分ハ英米記者ヨリ一再ナラス右様ノ質問ヲ受ケタル事アリ非常ニ当惑シタルニ付

方面ヨリ攻撃ヲ受ケ誠ニ困難ナル立場ニ立タサルヲ得サル次第ナリト頻リニ愚痴ヲ零シタルニ付本使ハ日本政府ノ趣旨ヲ諒解セラルルニ於テハ結構ナル次第ナリ只新聞ノ事ニ付テハ一言弁明スヘキカ滿鉄カ米国ニ於テ社債ヲ起ス事ハ単ニ資金ヲ得ムカ為ニシテ滿州ニ於ケル米國ノ企業ヲ促ス所以ニ非ス新聞紙ノ取締ハ誠ニ困難ナル問題ナルカ此上トモ新聞ニ余リ論議セラレサル様取締方日本政府及滿鉄ニ申送ル可キ旨ヲ述ヘ慰撫シ置キタリ（右様ノ次第三付新聞ニ書キ立テラレサル様此上トモ政府及滿鉄ニ於テ充分注意方御配慮ヲ請フ）

次テ本使ハ鐵道問題ニ言及シ滿鉄社長トノ間ニ成立シタル協定ハ誠意ヲ以テ実行セラレタキ旨ノ希望ヲ述ヘタルニ張ハ山本社長トノ協定ニ付テハ山西トノ軍事ノ發展ヲ見タル上張作相ヲ呼返ヘシ同人ヲシテ交渉セシメ度キ所存ナリト答ヘタリ本使ハ更ニ帽兒山分館問題ニ關シテハ我方ノ趣旨ハ貿易上ノ必要ヲ以テ分館ヲ開設セムトスルニ在リテ支那側ニ於テ反対セラルル必要無キニ拘ラス地方官憲カ頻リニ反対ノ態度ヲ表示セル故今猶解決ニ至ラサル次第ナルモ地方官憲ノ面目ヲ立ツル為田中副領事ヲ立去ラシムル事得策

要スルニ支那側ニ於テ多少ノ妥協的態度ヲ示サレ分館開設ニ至ル様大元帥ノ御諒解ヲ希望スル次第ニシテ右御諒解ヲ究セシムル方然ルヘキカト考ヘ居レリト答ヘタルニ付本使ハ詳細ノ事柄ヲ御承知無キハ御尤モナルカ

(3) 次ニ不法課税ノ問題ニ付本使ハ満州ニ於ケル不法課税ノ状況ヲ略叙シ奉天省ノミニテ十二種類ノ不法課税アリ吉林省ハ五種類黒竜江省ハ三種類アリ日本人トシテハ條約ノ規定以外ニ斯ル不法課税ニ服従スル義務ナキモ支那官憲カ種々ノ圧迫手段ニ出ツル為已ムヲ得ス抗議付ニテ納税スル向モ鮮カラサル現状ナリト述ヘタル處張ハ日本ハ二分五厘付加稅ノ徵收ヲ許サスト述ヘタルニ付本使ハ右付加稅ハ條約上未タ正式ニ各國ノ承認シタルモノニアラサル故ニ之カ徵收ヲ租借地内ニ於テ行ハシムルコトハ正式不承認ノ事実ト一一致セサルニ付租借地内ノ徵收ハ之ヲ拒絶スル次第ナルモ租

借地外ニ於テハ抗議付ニテ納税方ヲ默認シ居リ即チ實際上ハ納稅シツツアル次第ナリ又租借地内ノ徵稅ニ付テモ南北ノ權衡ヲ得ンカ為支那側ノ立場ヲ察シ納稅方ノ弁法ヲ考究シツツアル次第ナルカ不法課税問題未解決ノ為其儘トナリ

居ル次第二付兔ニ角不法課税ヲ速ニ解決スルコト然ルヘク而シテ詳細ノコトハ只今大元帥ト論議スルコトハ見合ハセ之ヲ地方の交渉ニ譲ルコトトシ度キ旨ヲ述ヘタル処夫レニシテモ宜シカラムト答ヘタルニ付本使ハ之ニテ引取りタリ張往訪ニ当リ新聞記者等ニ發見セラレサルカ為非常ナル工夫ヲ廻ラシタルニ拘ハラス既ニ嗅キ付ケラレタルニ付新聞記者ノ質問ニ對シテハ張トノ會見ハ之ヲ認ムルモ出來得ルタケ事態ヲ小ナラシムル様力ムル所存ナリ御含ミ迄奉天ヘ転電セリ

236 昭和2年12月14日

田中外務大臣より  
在米國松平大使宛（電報）

鐵道問題その他滿蒙懸案に関する對張作霖交

涉経過について

別電 十二月十四日付田中外務大臣より在米國松平大使宛第三六〇号

#### 山本・張鐵道協約について

本省 12月14日後発

第三五九号

往電第二九〇号ニ閑シ

滿蒙懸案ニ關スル對支交渉ハ九月上旬奉天排日運動ニ對スル支那側ノ措置ヲ看視スル意味ニ於テ一時見合セ居リタルカ九月下旬ニ至リ排日運動モ略鎮靜ニ帰シタルヲ以テ本交渉轉回ヲ圖リ本庄武官ノ帰朝ヲ機トシ同官ヲシテ本大臣ノ伝言トシテ張作霖ニ帝国政府ノ意ノアル所ヲ伝ヘ篤彼ノ反省ヲ促サシムルト共ニ芳沢公使ニ交渉再開ノ準備ヲ命シタルカ一方山本滿鉄社長ハ就任挨拶ノ為十月十日北京ニ赴キ張作霖ニ面会ノ際予メ本大臣ヨリ申含メ置キタル次第モアリタルコトトテ鐵道問題ニ談及シ内密張ノ同意取付ニ努力シタル結果同社長ト張トノ間ニ要領別電第三六〇号ノ如キ諒解成立スルニ至レリ右諒解ニ包含セラルル鐵道ハ当初政府ノ予定セル線ト一致セサル点アルモ此ノ際之ヲ云々スルハ面白カラス又打通線及海吉線モ或条件ノ下ニ承認差支ナキ當方ノ下心ナリシヲ以テ右山本張間ノ諒解ヲ承認スルコトトシ爾來右ニ對スル張作霖ノ確認取付ケ方内密ニ交渉

スル所アリ其ノ間満鉄外債ニ関スル楊宇霆会談ノ如キ波瀾

アリタルモ本月五日漸ク張作霖ヨリ芳沢公使経由本大臣宛書翰ヲ以テ右諒解ヲ確認シ來レリ依テ該諸鉄道ニ付テハ満

鉄ヲシテ請負契約締結方着々支那側ト交渉セシムル筈又鉄

道問題以外ノ諸懸案即東三省ニ於ケル不当課税及帽兒山分

館問題等ニ付テハ本月九日芳沢公使張作霖ニ会見シ篤ト申

入ルル所アリタルカ今後ハ互讓ノ精神ヲ以テ必要ニ応シ地

方的交渉ニ移シ之カ解決ヲ促進スル方針ナリ前記山本張ノ

諒解ハ支那側国内關係等ヲモ顧慮シ請負契約成立迄ハ絶対

ニ秘密トナシ置ク筈ニ付御含アリ度シ

(別電) 本省 12月14日後発

\*第三六〇号

一、支那政府ハ満鉄ニ(1)敦化ヨリ老頭溝ヲ經テ図們江江岸

ニ至ル線(2)長春ヨリ大齊ニ至ル線(3)吉林ヨリ五常ニ至ル

線(4)洮南ヨリ索倫ニ至ル線(5)延吉ヨリ海林ニ至ル線ノ五

鉄道建造ヲ請負ハシム工事ハ請負契約調印後直ニ施行ス

二、各線工事完成譲渡後請負金額ノ支払ナキトキハ洮昂鉄

道ノ例ニ依リ借款トス

三、支那政府ハ打虎山ヨリ通遼ニ至ル鉄道ヲ通遼以北ニ延長セス又本鉄道ハ将来満鉄ト連絡ニ関シ協議ス

四、支那政府ハ吉林ヨリ海龍城ニ至ル鉄道ノ線路ヲ決定ス但本鉄道ハ将来満鉄ト連絡ニ関シ協議ス

五、支那政府ハ開通ヨリ扶余ニ至ル鉄道ヲ建造セス

但本鉄道ハ将来満鉄ト連絡ニ関シ協議ス

三、支那政府ハ打虎山ヨリ通遼ニ至ル鉄道ヲ通遼以北ニ延長セス又本鉄道ハ将来満鉄ト連絡ニ関シ協議ス

四、支那政府ハ吉林ヨリ海龍城ニ至ル鉄道ノ線路ヲ決定ス但本鉄道ハ将来満鉄ト連絡ニ関シ協議ス

五、支那政府ハ開通ヨリ扶余ニ至ル鉄道ヲ建造セス

237 昭和2年12月14日

在中國芳沢公使より

山本・張鐵道協約に関する張作霖宛回答書簡

写について (接受日不明)

\*機密第一二七〇号

昭和2年12月14日 在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉(印)

外務大臣 田中 義一殿

張、山本鐵道協定ニ關スル張作霖宛回答書

往電第一三一三号ニ關シ本使ヨリ張作霖ニ手交シタル書翰

(二三五文書)

写為念別添送付ス

本信写送付先 奉天

(別添)

張大元帥閣下敬復者本月五日

閣下致中外務大臣

台函内容當經轉頃奉田中外務大臣電訓内称關於鐵路問題

將張大元帥与山本社長所商成之協議為根柢以期円滿解決即

無異議應希函復前途為要等語相應函達

台端即請

查照為荷專此奉復敬頤

勅祺

十二月九日

芳沢 謙吉 啓